

**AICA**



AICA Group  
CSR Report  
**2020**

アイカグループCSRレポート

【社 是】

# 挑戦と創造

【経営理念】

アイカグループは共生の理念のもと、  
たえざる革新により新しい価値を創造し、  
社会に貢献してまいります

【経営方針】

## 1 化学とデザイン

化学とデザインの力で独創性のある商品をつくり、豊かな社会の実現に貢献します。

## 2 グループシナジー

技術・素材連携やチャネル活用を追求し、グループシナジーを創出します。

## 3 No.1

事業分野や地域におけるNo.1商品を拡充します。

## 4 グローバル

海外における生産・販売拠点と人材の充実を図り、グローバル市場で持続的な成長を目指します。

## 5 人材と組織

人材を最も重要な経営資源と捉え、相互理解と成長を通じ、活力あふれる人材・組織を形成します。

## 6 コンプライアンス経営

法令や社会秩序を守り、公正で透明性の高いコンプライアンス経営を実践します。

## 7 安心・安全への約束

ステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、  
「信頼される品質の確保」や「環境に配慮した事業活動」を推進します。

# CHALLENGE and CREATION

## INDEX

### ■ About アイカ

- 03 財務・非財務ハイライト
- 05 トップメッセージ
- 09 好循環モデルと  
コアコンピタンス
- 11 価値創造の変遷
- 13 化学力の系譜
- 15 事業内容
- 17 グループネットワーク

### ■ アイカのビジョン

- 19 アイカ10年ビジョンと  
中期経営計画の進捗
- 21 中期経営計画  
新しい価値を創造する  
成長ドライブ
- 25 事業概況: 化成品事業
- 27 事業概況: 建装建材事業

### ■ アイカを支える基盤

- 29 アイカのCSR活動
- 31 アイカグループの  
マテリアリティ
- 33 経営基盤
- 43 人材
- 49 環境
- 55 ステークホルダーとの関わり
- 60 第三者意見

### 会社概要 (2020年3月末現在)

社 号 アイカ工業株式会社  
本社所在地 〒450-6326  
愛知県名古屋市中村区名駅  
一丁目1番1号 JPタワー名古屋26階  
創 立 1936年(昭和11年)10月20日  
代 表 者 代表取締役 社長執行役員 小野勇治  
資 本 金 98億9,170万円  
従業員数 [連結] 4,781名 [単独] 1,239名

### 編集方針

この報告書はアイカグループのCSRに関する企業活動を、ステークホルダーの皆さま(お客さま、株主、取引先、地域社会、従業員)に、グラフや写真などを使い、分かりやすくお伝えすることを念頭に作成しました。

### 参照ガイドライン

- ISO26000
- 環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
- GRI スタンダード

### 対象期間・範囲

アイカグループの2019年度の活動についてまとめたものです。一部2020年度の活動内容も含んでいます。対象範囲については報告内容ごとに記載しています。

### アイカのCSRコミュニケーション

アイカグループ  
CSRレポート  
(冊子・PDF)  
(日本語・英語・中国語)  
アイカグループのCSR活動に関する年次報告書。



### アイカホームページ (CSR活動)

CSRレポートの補足情報、PDFデータを公開。  
<http://www.aica.co.jp/company/environ/>

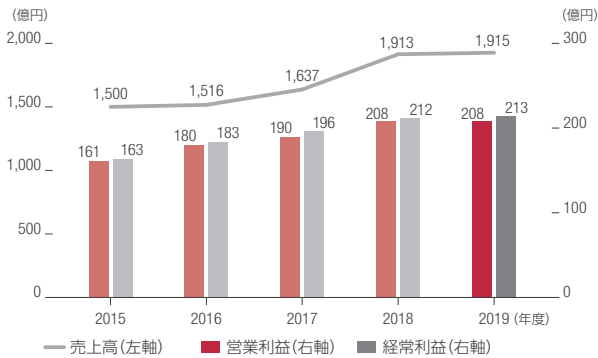


### 本報告書に関するお問合せ先

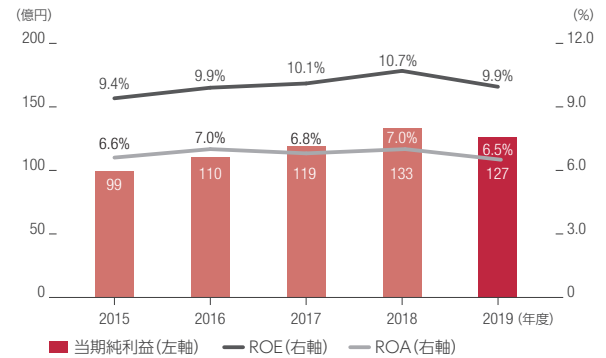
- 経営企画部 TEL 052-533-3136
- 安全環境部 TEL 052-443-5941

# 財務・非財務ハイライト

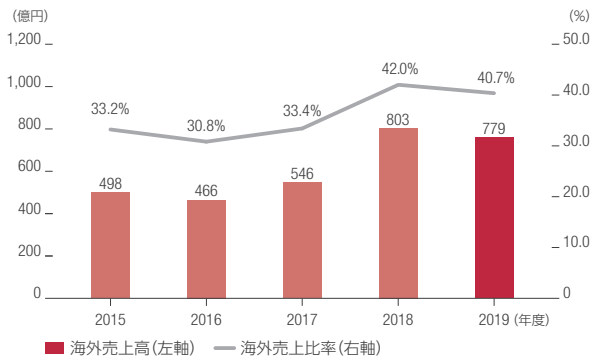
## 売上高／営業利益／経常利益



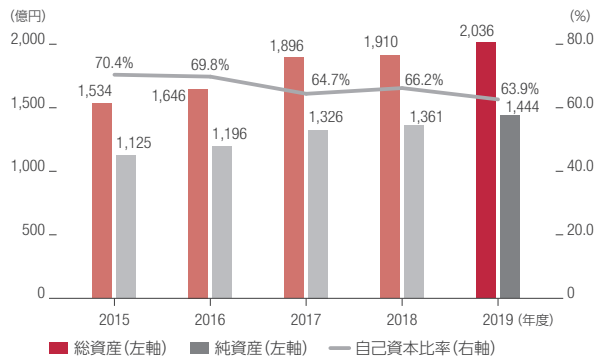
## 親会社株主に帰属する当期純利益／ROE／ROA



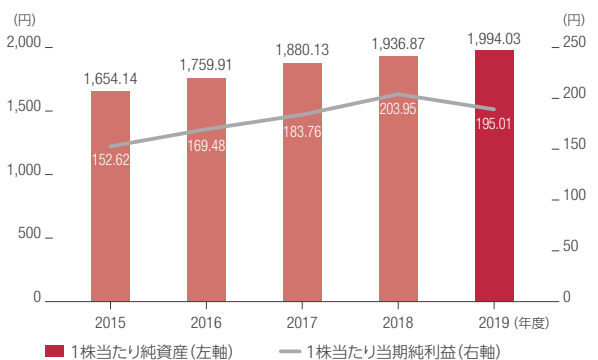
## 海外売上高／海外売上比率



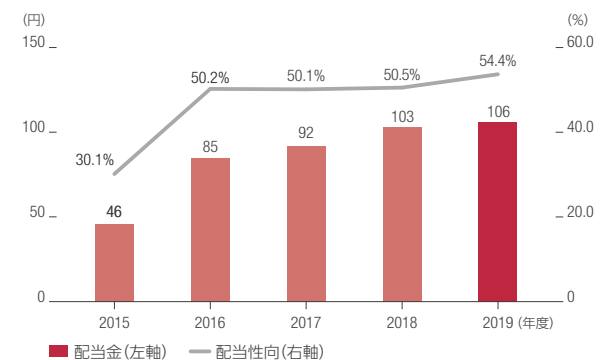
## 総資産／純資産／自己資本比率



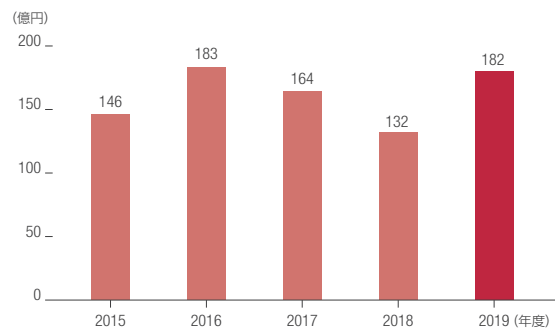
## 1株当たり純資産／1株当たり当期純利益



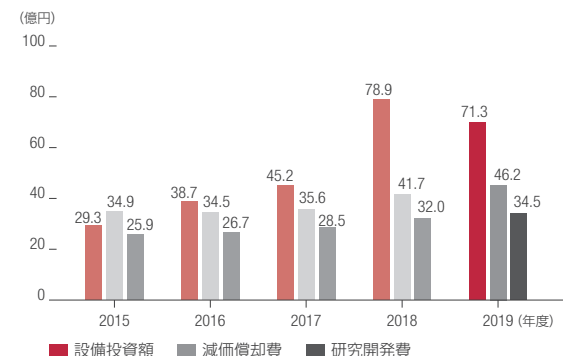
## 配当金／配当性向



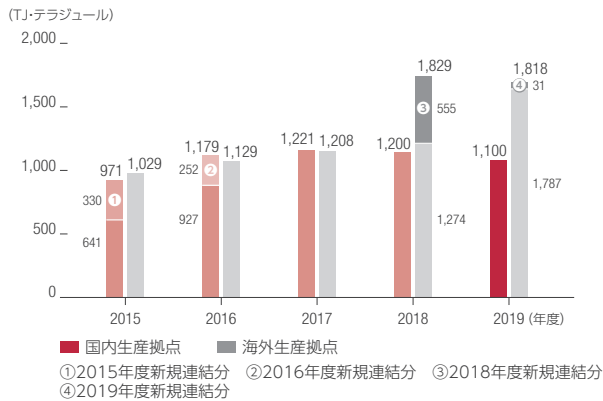
## 営業活動によるキャッシュ・フロー



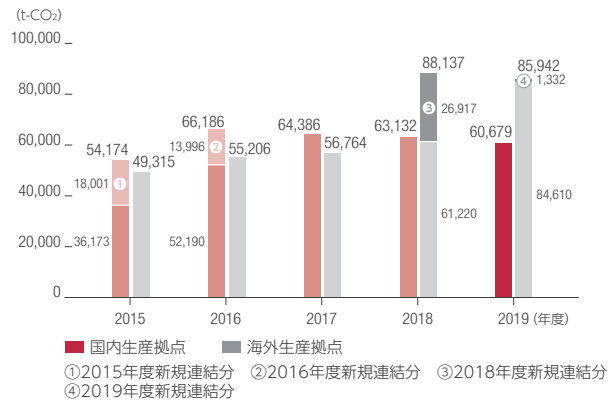
## 設備投資額／減価償却費／研究開発費



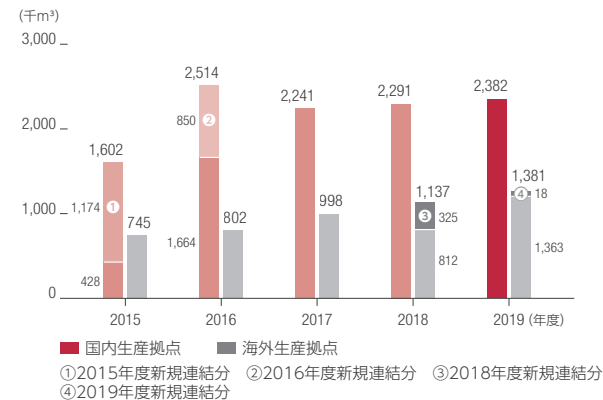
## エネルギー投入量



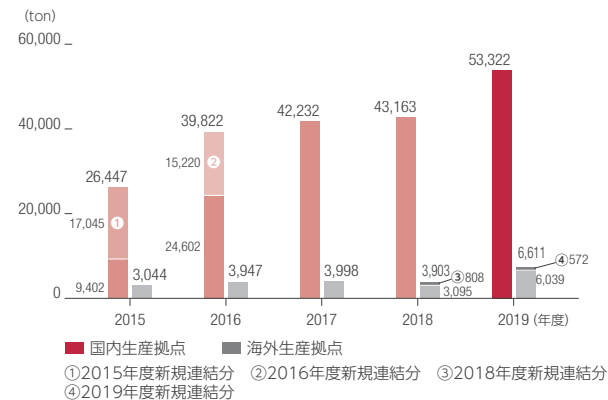
## 温室効果ガス排出量



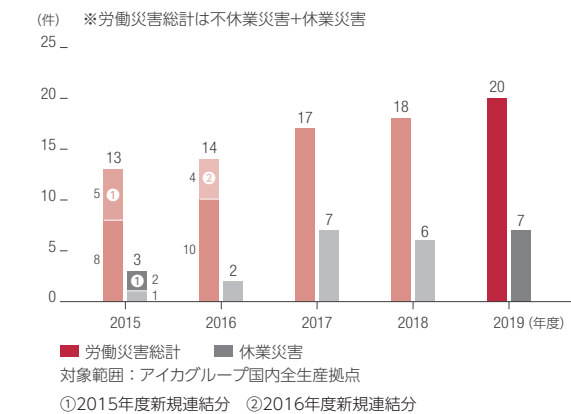
## 水使用量



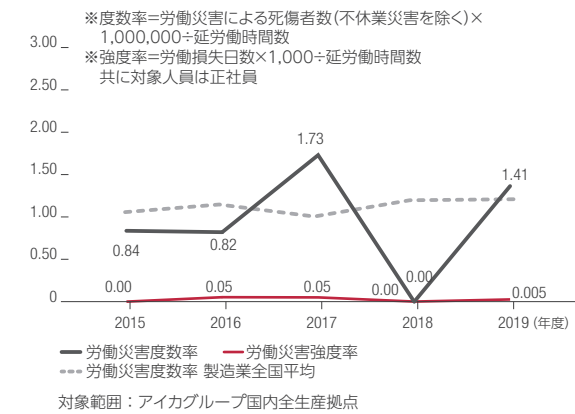
## 産業廃棄物発生量



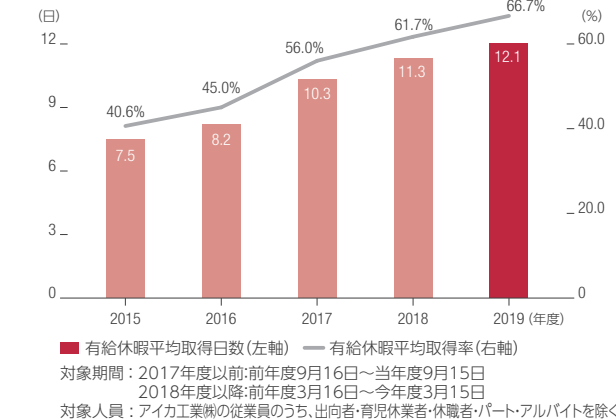
## 労働災害発生件数



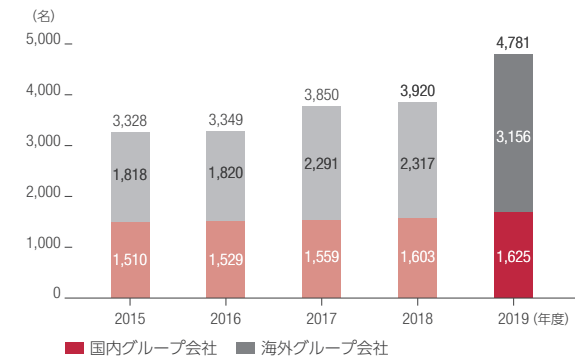
## 労働災害度数率／強度率



## 有給休暇平均取得日数／有給休暇平均取得率



## 従業員数(国内／海外)



# トップメッセージ



## 1 2020年3月期を振り返って

2020年3月期の連結業績は、売上高191,501百万円(前年同期比0.1%増)、営業利益20,850百万円(同0.1%増)、経常利益21,333百万円(同0.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益12,732百万円(同4.4%減)となり、売上高・営業利益・経常利益共に8期連続で過去最高を更新しました。

国内においては、当社の主要フィールドである建設市場環境が住宅・非住宅共に低調でしたが、社会課題の解決に資する商品群「AS(Aica Solution)商品」が市場環境以上に売上を伸ばし、好調に推移しました。

海外既存事業においては、原材料価格の低下により減収増益となりました。また、5件のM&Aを実現させ、事業基盤をさらに強化することができました。

## 2 コロナ禍の影響と対策<sup>※1</sup>

<sup>※1</sup>1.2020年6月末時点の状況を元に記載しています。

### 工場や原材料調達への影響

新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、海外の一部拠点では各都市のロックダウンによる一時的な稼働停止があったものの、現在はすべての工場が稼働しています。また、原材料調達においてはこれまで講じてきたBCP対策が功を奏し、大きな影響は出ず、お客様への供給責任を果たすことができました。

### BCP強化と働き方改革推進

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行を経験したことで、原材料調達や生産体制における課題が発見できました。購買先を複数持つだけでなく、国や地域を分散させ、いかなる

# CSRを経営の基軸に据え、 社会から必要とされる 「持続的に発展する企業体」の 実現を目指します。

代表取締役 社長執行役員 **小野勇治**

情勢においても原材料が確保できるよう更なる対策を講じていきます。また、生産拠点の分散・複数化も進め、サプライヤーとしての供給責任を果たすべく体制の最適化を図ります。

また、政府からの呼びかけに応じ、国内および海外の一部拠点において急遽テレワークを導入しました。日本国内においては緊急事態宣言解除後に定常的な実施は取りやめたものの、定期的にテレワークを実施し、状況に応じて臨機応変に対応できるよう体制を整えています。テレワークが難しい生産現場においてはさらに厳しい感染症対策を実施しております。

## ■ 新しい生活様式に向けた商品提案

今年に入ってから世界は一変し、ウイルスとの共存に向けて社会常識が大きく変わり始めました。そのような状況

下で、昨年発売した抗ウイルス建材「ウイルテクトシリーズ」が新しい生活様式に取り入れられつつあります。当社は「アイカ好循環モデル(→P9)」で説明しているように、あらゆるステークホルダーの声を聞き、課題解決に資する商品の開発を行ってきました。今後も新たなニーズを迅速に捉え、社会に貢献する商品を拡充していきます。

## 3 アイカ10年ビジョン(→P19)達成に向けて

今期最終年度を迎える中期経営計画「C&C2000」(→P20)は、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら財務目標の一部は届かない見込みですが、引き続き「C&C2000」で定めた基本方針に沿って、持続的成長に向

# トップメッセージ

けた各種施策を後述の通り講じます。アイカ10年ビジョンの実現に向けて今やるべきことを見極め、適切な研究開発投資や設備投資を実行していきます。

## ■ AS商品「抗ウイルス建材 ウイルテクトシリーズ」

さまざまな社会課題を解決する商品を「AS(Aica Solution)商品」と定めて、開発・拡販に注力しています。中でも、昨年発売した抗ウイルス建材「ウイルテクトシリーズ」は、急速に引き合いが増加しています。メラミン化粧板「アイカウイルテクト」の発売に始まり、壁用の「セラルル」、「ポストフォームカウンター」、医療・介護向け建具「U.D.コンフォート」、「トイレブース」へとシリーズを拡大し、医療・介護施設、育児・教育施設、店舗・飲食店、オフィス、工場、住宅など、様々なシーンで採用されています。

今後はこの抗ウイルス性能を様々な商品に付与することにより、住宅・非住宅市場における床・壁・家具・建具用途とあらゆるニーズを取り込み、ウイルテクトシリーズの売上を3年後に50億円へ伸長させる計画です。

## ■ 次世代を担う機能材料事業の強化

事業の多角化を通じ、より強固な体質を構築すべく注力しているのが機能材料事業です。アジア圏を中心に、自動車・電子機器・衛生材・衣料などの非建設分野向け商品の拡充・拡販を推進しています。2018年1月にアイカグループに加わったエバモア・ケミカル・インダストリー社(以下、EMC社)は、2020年7月にベトナムのウレタン製造会社を買収し、さらに拠点を充実させました。EMC社は運動靴底用のポリウレタンシステム(PUS)市場において世界的に高いシェアを持つほか、衣料用繊維や食品包装向け架橋剤など、当社が未開拓であった分野にも強みを持っています。今後もEMC社の高度な樹脂設計技術を活用し、新たな市場・分野でのシェア獲得に向け邁進していきます。

## ■ 海外事業の強化

2019年12月、米国のグローバルメラミン化粧板メーカーであるウィルソナート社が保有するアジア・オセアニア地域の事業会社4社がアイカグループに加わりました。また、2020年3月にはベトナムの化粧板販売会社であるCHIグループ各社の事業を承継した「アイカHPLトレーディング社」も加わりました。これらにより、当社グループのアジア・オセアニア地域における建装建材ビジネスのプラットフォームが格段に整備されました。

海外事業は積極的なM&Aの活用により、生産拠点、販売網、そして豊富な人材を獲得しました。さまざまな知識とスキルが強化され、よりレジリエンスのある体質となりました。



化成品事業・建装建材事業双方の拠点を活用し、販売戦略の最適化を図ります。

## 経済価値と社会価値を両立させる、CSR経営

深刻化する世界的な社会課題に真摯に向き合い、課題解決に向けた企業活動を行うことは、グローバルに事業を展開する企業として当然の責務であると考えています。「持続可能な開発目標(SDGs)」をはじめとした社会課題の解決に向けてグループ一丸となって取り組むべく、活動の深化・体制の強化に力をいれています。

## ■ CSR推進体制強化

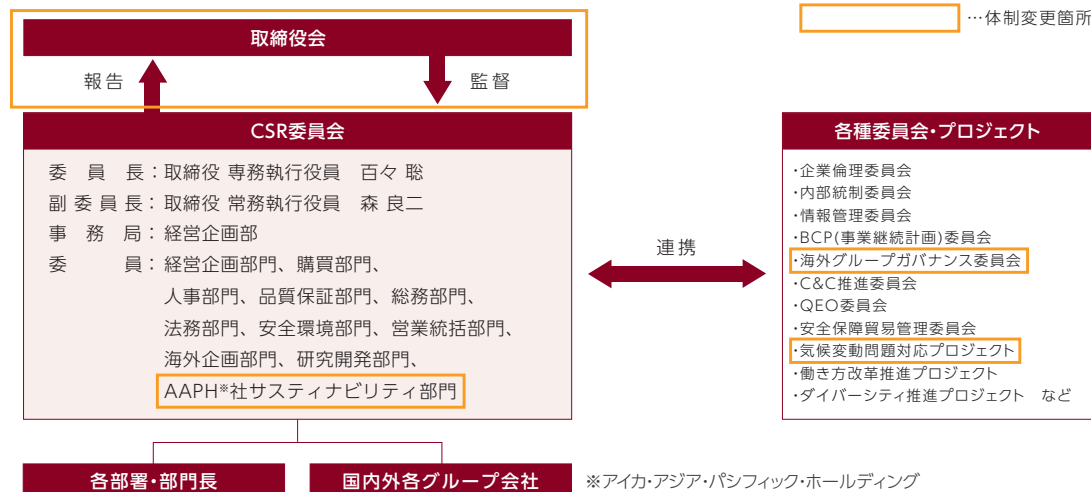
当社のCSRの取り組みを主導するCSR委員会に対する取締役会監督機能の強化を目的に、CSR活動の報告先を経営会議から取締役会に変更しました。また、海外グループ会社とのCSR連携強化を目的に、グループ会社であるアイカ・アジア・パシフィック・ホールディング社のサステナビリティ部門長をメンバーに加えました。さらに、気候変動問題への対応強化を目的に、2020年4月に気候変動問題対応プロジェクトを立ち上げました。管理部門だけではな



く、開発部門や生産部門の責任者と共に、環境指標の抜本的改善に向けた方策を検討・実行します。2020年5月には

TCFDへの賛同を表明しました。気候変動に関連する適切な情報開示を進めていく所存です。

### 2020年4月以降のCSR推進体制



### ■ コーポレート・ガバナンス強化

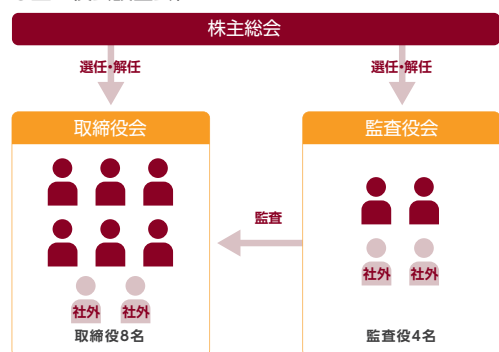
当社は、経営の透明性の向上を目的に、2020年6月より、監査等委員会設置会社へ移行しました。監査等委員の過半数が社外取締役で構成される監査等委員会が、業務執行の適法性、妥当性の監査・監督を担うことで、一層のコーポレート・ガバナンス強化を図るとともに、国内外のステークホル

ダーの期待に応える体制の構築を目指します。

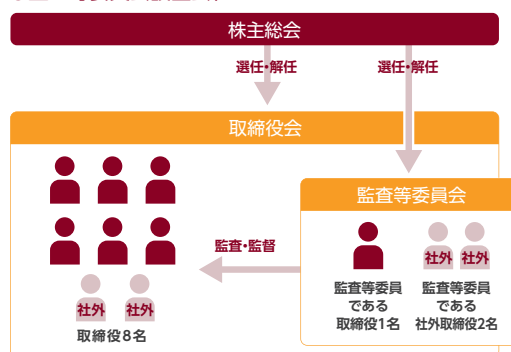
また、海外グループ会社のガバナンス強化を目的に、海外企画部および海外グループガバナンス委員会を設置しました。近年、M&Aにより海外のグループ会社が急増している現状を踏まえ、これらの専門部門を設置し体制を強化しました。

### 監査等委員会設置会社への移行イメージ

#### ● 監査役会設置会社



#### ● 監査等委員会設置会社(2020年6月23日以降)



### ■ 「持続的に発展する企業体」の実現を目指して

当社は、経営理念の中心に「共生」という言葉を含め、すべてのステークホルダーに対してCSRを果たすべく、これまでも環境や人に配慮した事業活動・製品開発に努めてきました。この

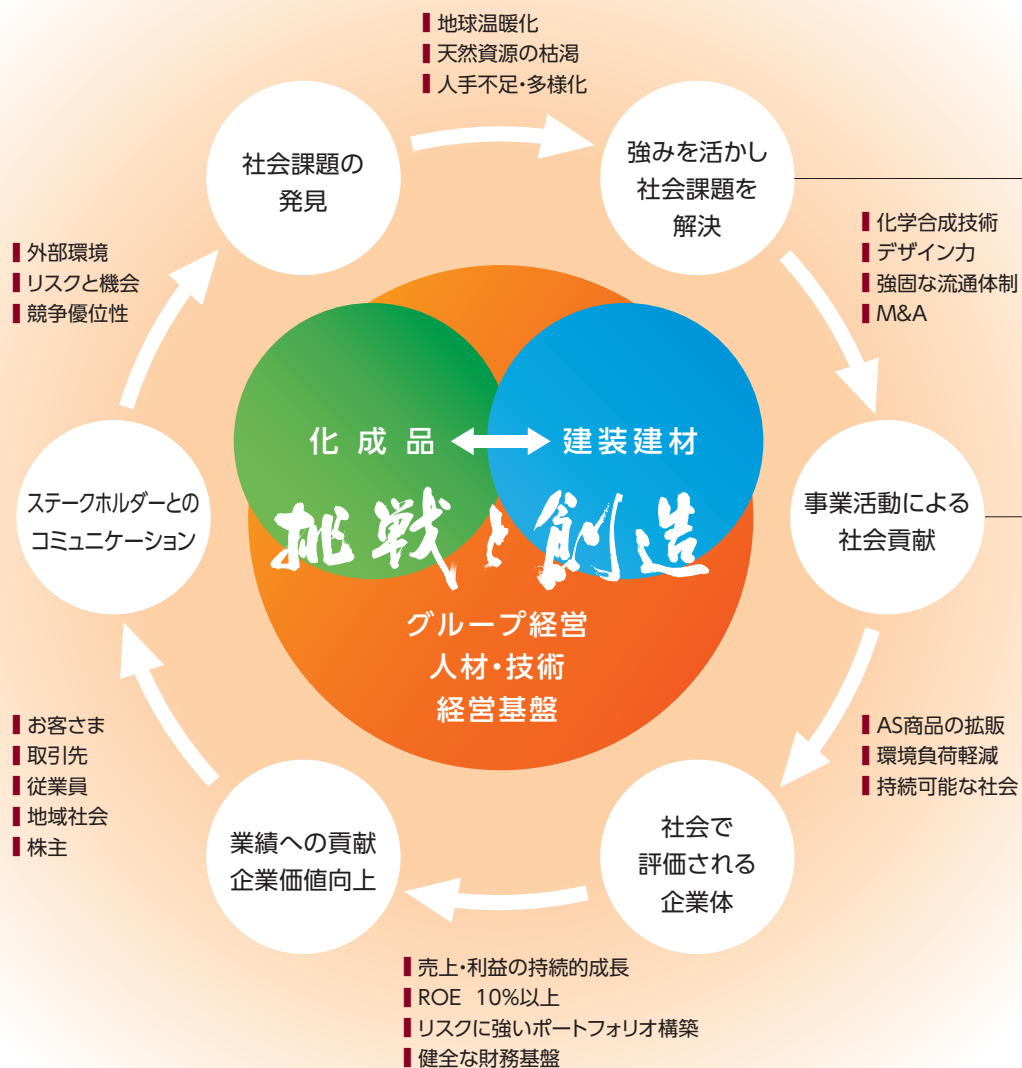
思想は、国連グローバル・コンパクトの思想へ通じるものであるとの認識から、2019年に参加を表明しました。CSRを経営の基軸に据え、社会から必要とされる「持続的に発展する企業体」の実現を目指します。

# 好循環モデルとコアコンピタンス

## 好循環モデルの考え方

アイカグループは、ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて社会課題を発見し、リスクとして認識するとともにビジネスチャンスに置き換え、社会課題の解決に貢献する「AS (Aica Solution) 商品」を開発・拡販することで、社会貢献と事業の持続的成長を果たしていきます。

## 財務面と非財務面が両立する好循環モデル



## アイカグループとSDGs

アイカグループは、グローバルに事業を展開する企業として、「SDGs(持続可能な開発目標)」に取り組むことを国連グローバル・コンパクトへの署名を通じて約束し、SDGsの達成を目指した活動を開始しました。2018年度にマテリアリティを見直した際には、それぞれの項目の課題との関連性を整理し、グローバルな社会課題を解決するために当社が行うべき重要な事業活動を改めて明確にしています。

企業活動全体を通してさまざまなステークホルダーとともに社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。



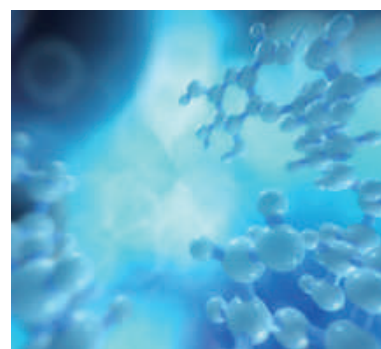
## 好循環モデルを加速させる3つのコアコンピタンス

特定分野においてシェアNo.1を獲得し、世の中になくなくてはならないものを提供し続けるアイカグループには、ユニークな3つの強みがあります。化学の会社でありながらデザイン領域で活躍し、グローバルなネットワークできめ細かなソリューションを提案しています。

### 化学技術

独自技術で独創性の高い商品を提供します。

創業当時から培ってきた「化学技術」は、化成品事業、建装建材事業、すべての事業活動の基盤となっています。各種接着剤向けの樹脂合成技術をコア技術とし、建装建材分野、機能材料分野へとその技術を応用することで、独創性の高い商品開発を可能としています。化学のチカラで社会課題を解決し、人々の暮らしを豊かにします。



### デザイン

デザインので新しい価値を創造します。

国内シェアNo.1を誇るメラミン化粧板を中心に、最先端のトレンドを取り入れた商品を世に送り出し、空間を彩る建材メーカーとして確固たる地位を確立しています。

また、色や柄の美しさを提案するだけでなく、ステークホルダーとのコミュニケーションにより発見した社会課題に向けて、“使いやすいカタチ”や“安全な構造”、“健康や安心につながる工夫”といったものもデザインしています。デザインのチカラで新しい価値を創造し、誰もが快適に暮らせるこちよい未来を作ります。



### 販売網

きめ細かな対応ができる体制を整えています。

お客さまの元に素早く商品をお届けするために、販売網を整備しています。国内においては、全国各地に営業拠点を置くとともに、当社製品について豊富な専門知識を持つ代理店で「アイカ会」を組織し、きめ細かな対応ができる体制を整えています。

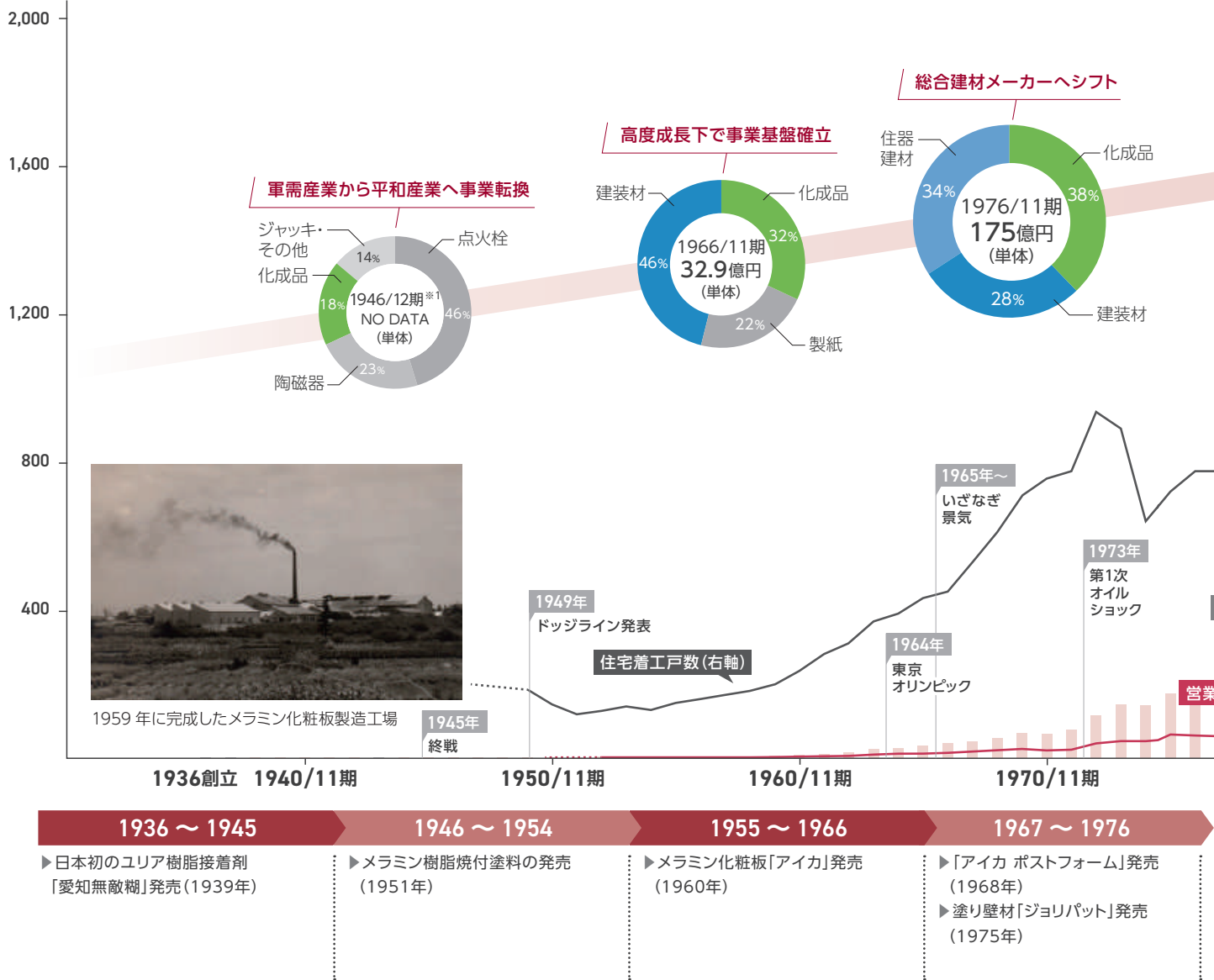
海外においては、アジア圏を中心に、M&Aも活用しながら海外販売網の拡充を推進しています。また、化成品事業・建装建材事業それぞれの海外統括会社を設置し、地域に根差した現地ニーズをタイムリーに汲み取り、ビジネスの現地化を推進しています。



# 価値創造の変遷

創業当初より培った樹脂合成技術を核に、時代に合わせて柔軟にポートフォリオを組み替えてきました。新規事業への挑戦、シナジーの活用など、挑戦と創造の精神は、時代を越えて今も受け継がれています。

売上(億円)



About アイカ

アイカのビジョン

アイカを支える基盤

## 1936年 国内初、合成樹脂接着剤を開発

高い接着力と耐久性を持ったユリア樹脂接着剤を開発。天然系接着剤から性能の高い合成樹脂接着剤への転換を牽引しました。



## 1960年代~1970年代 無臭合板の開発に寄与

需要が拡大する合板の生産性向上のため、ノークランプ型のメラミン・ユリア共縮合樹脂接着剤を開発。ホルムアルデヒドの検出が少ない同接着剤の使用を呼びかけ、無臭合板が誕生しました。

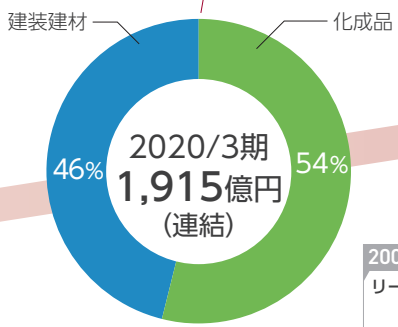
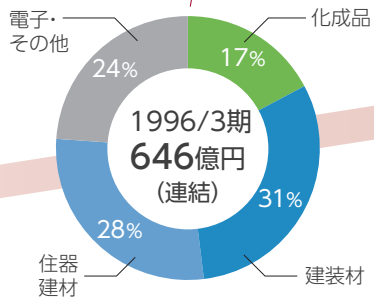
## 1980年代後半 廃材とされていたゴムの木の活用

樹液採取後の天然ゴムの木を、リサイクルウッドとして集成材化し、階段部材やカウンターとして製品化。森林資源有効活用の先駆けとして注目されました。

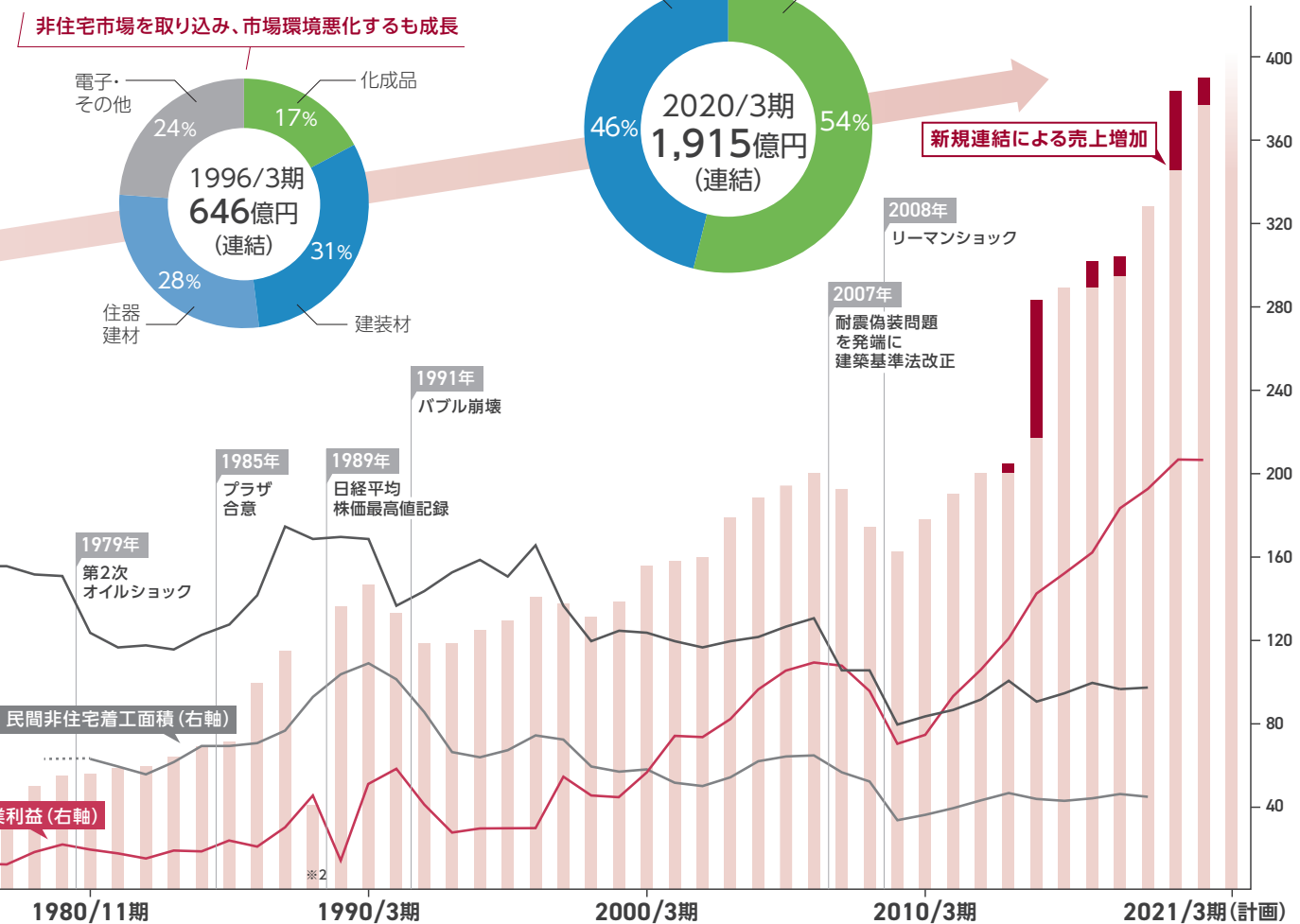


M&Aを活用し、国内建設市場動向に左右されない体質へ

非住宅市場を取り込み、市場環境悪化するも成長



営業利益(億円)  
住宅着工戸数(万戸)  
民間非住宅着工面積(百万㎡)



※1 戦後の混乱で資料が存在せず、1946年12月単月の実績 ※2 1989年3月期は決算月変更に伴い4ヶ月決算。注：1979年11月期から連結決算を開始しており、それ以前は単体決算。

1977 ~ 1986	1987 ~ 1994	1995 ~ 2009	2010 ~
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶高級木製ドア「イースタンチェリードア」発売(1978年)</li> <li>▶メラミン化粧板「アイカラーシステム105」発売(1984年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶メラミン化粧板国内シェアNo.1へ</li> <li>▶メラミン不燃化粧板「セラル」発売(1989年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶「セラル」がキッチンパネルとして大ヒット(1996年~)</li> <li>▶「環境報告書」創刊(1999年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶Dynea社のアジア太平洋部門子会社の株式取得(2012年)</li> <li>▶エバモア・ケミカルインダストリー社の株式取得(2018年)</li> <li>▶ウィルソナート社アジア太平洋地域子会社の株式取得(2019年)</li> </ul>

1990年代~2000年代

シックハウス症候群への対応

1990年代から、シックハウスなど、化学物質過敏症が深刻な社会問題に。2003年の改正建築基準法や2002年の厚生労働省の指針に対応し、ホルムアルデヒドやトルエン、キシレンなどの規制物質を使用しない健康住宅対応接着剤「アイカエコエコボンド」を発売。



2010年

森林資源保護への対応

国内メラミン化粧板メーカーとして初めて、メラミン化粧板の一部で「森林認証(FSC・PEFC)」のCoC認証を取得。その後同製品および一部の化粧ボードがバイオマスマークを取得。



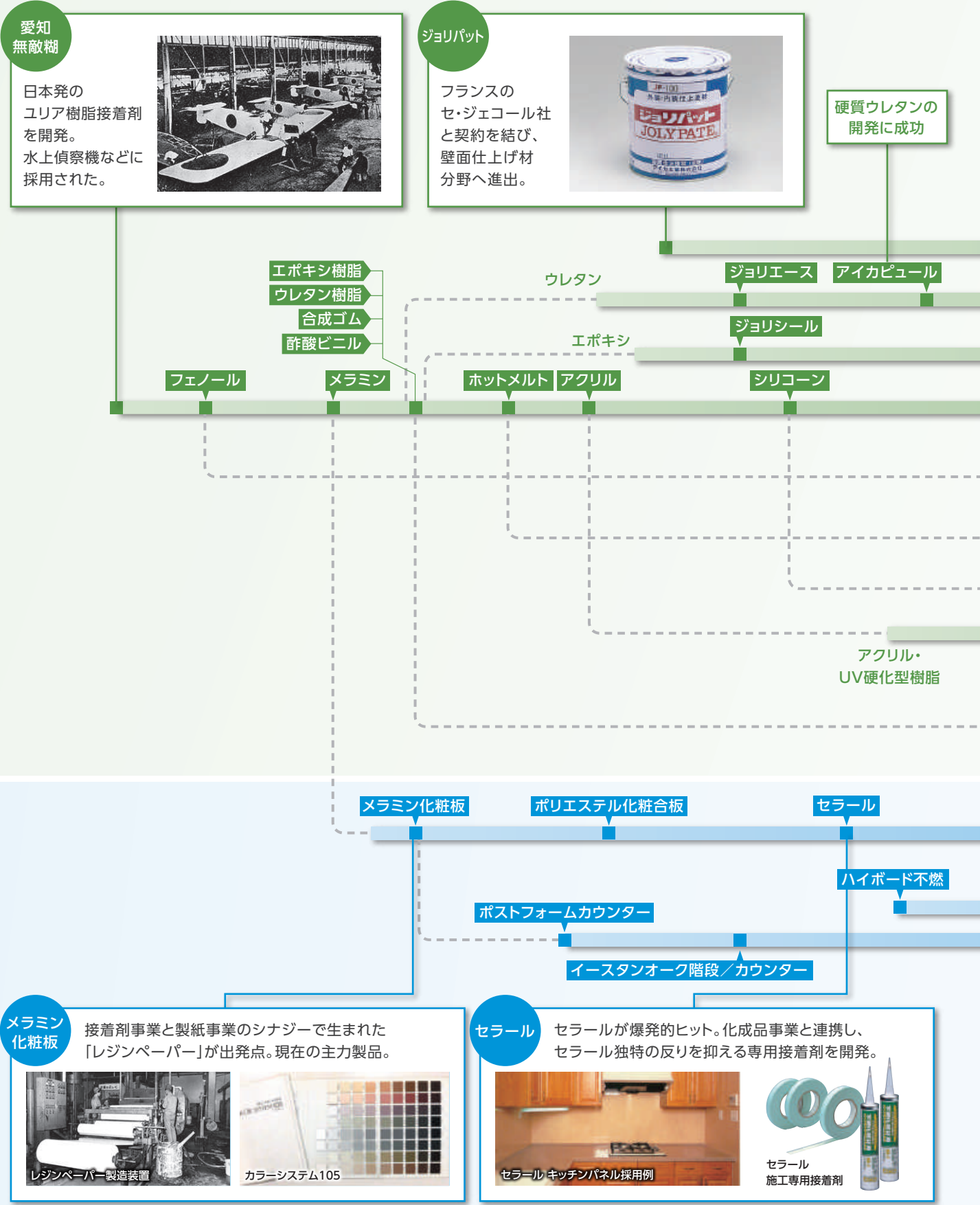
2017年~

AS商品の開発・拡販

社会課題解決に資する商品群をAS(Aica Solution)商品として位置づけ、開発・拡販に注力。その目的は、人手不足問題の解決や、廃材削減、安心できる街づくりなど多岐にわたります。

# 化学力の系譜

創業当初より培った化学技術は当社のコア技術であり、独創性の高い商品を生み出すための重要な柱です。接着剤の開発から始まった歴史は、枝分かれしたそれぞれの事業にも受け継がれ、進化を続けています。



About AICA

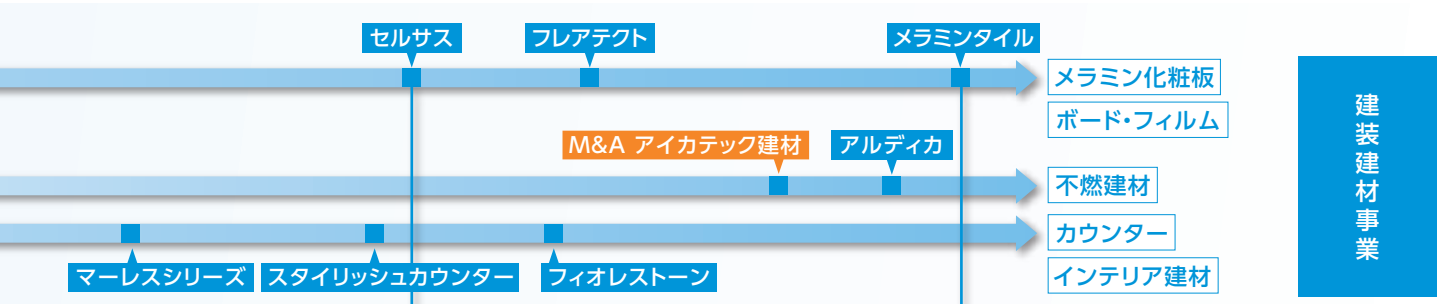
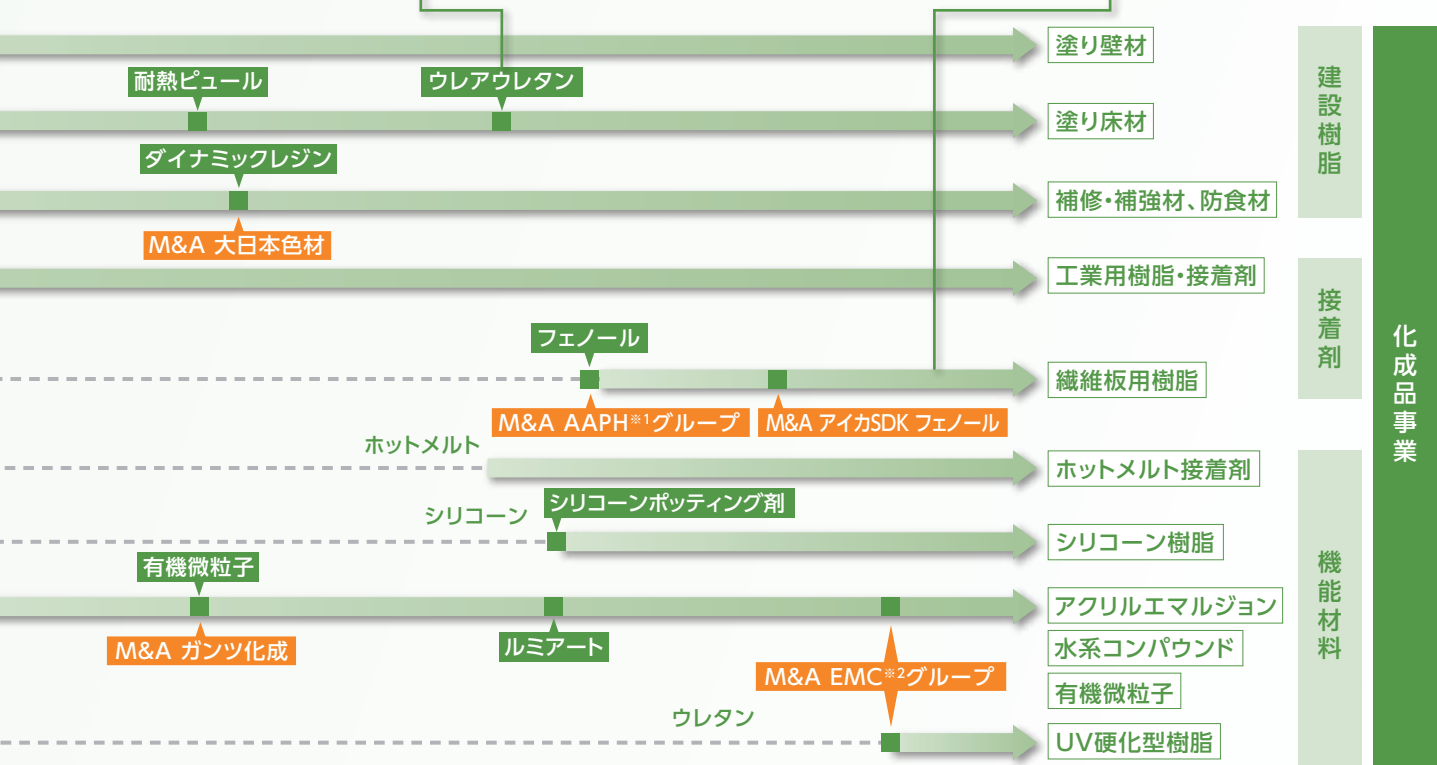
AICAのビジョン

AICAを支える基盤

**ウレアウレタン** 独自技術でウレアウレタン樹脂の透明化に成功。

**フェノール樹脂** AAPH<sup>※1</sup>社が植物由来原料のリグニンを活用したリグニンフェノール樹脂の開発に成功。

リグニンフェノール樹脂プロジェクトのメンバー  
リグニンの粉末



**セルサス** 指紋が目立ちにくいメラミン化粧板「セルサス」を開発。後にグッドデザイン賞および、iFデザイン賞受賞。

**CEL SUS**  
指紋レスメラミン化粧板 セルサス

**GOOD DESIGN** 2011  
**iF material award**

**メラミンタイル** 耐久性が高いメラミン樹脂層を表面にもつ床材を開発。機能材料事業の技術を応用し、メラミン化粧板特有の反りを抑制。

高圧メラミン化粧層  
塩基基材

※1:アイカ・アジア・パシフィック・ホールディング ※2:エパモア・ケミカル・インダストリー

# 事業内容

## 化成品事業

### コア技術を培った基盤事業

1936年に日本で初めてコリア樹脂接着剤を開発して以来、化学合成技術で時代をリードする商品を開発してきました。2000年代以降は、新規事業領域として機能材料製品の拡充に注力しており、活躍の場は多岐に渡ります。

売上高

1,039 億円

国内売上高

32.3%

海外売上高

67.7%

営業利益

81 億円

### 事業領域



木材加工



建築



土木



自動車



電子材料



工業製品



日用品

## AICA SOLUTION

【化成品】  
化成品事業  
【機能材料】

化学合成技術  
接着・接合技術  
無機素材成形  
加工技術

### 主な製品

#### 接着剤



##### 工業用・施工用接着剤

木工家具製品や建材の製造過程、建築施工現場などで使用される接着剤。



##### 工業用樹脂

合板・集成材、研磨材、鋳型、接着剤など工業製品の原料として使用される樹脂。



##### 繊維板用樹脂

小片化・繊維化した木材をつなぎ合わせたボード類を成型するための樹脂。

#### 建設樹脂



##### 塗り壁材(ジョリパット)

住宅、店舗、公共施設などの内外壁に使用される、アクリル樹脂をベースとした建築塗材。

住宅 非住宅



##### 塗り床材(ジョリエース)

工場・倉庫など耐久性や耐熱性を求められる部位に使用される合成樹脂系塗り床材。

住宅 非住宅



##### 補修・補強材、防食材 (ダイナミックレジン)

コンクリート構造物の補修材や、タイルの剥落防止材、防食ライニング材などの樹脂製品。

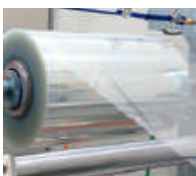
住宅 非住宅

#### 機能材料



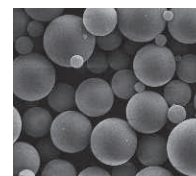
##### ホットメルト

防水性に優れるため自動車のヘッドランプや太陽光パネルに使用される接着・封止剤。



##### UV硬化型樹脂

スマートフォンやパソコンなどの電子製品や建材などに使われる即硬化性がある樹脂。

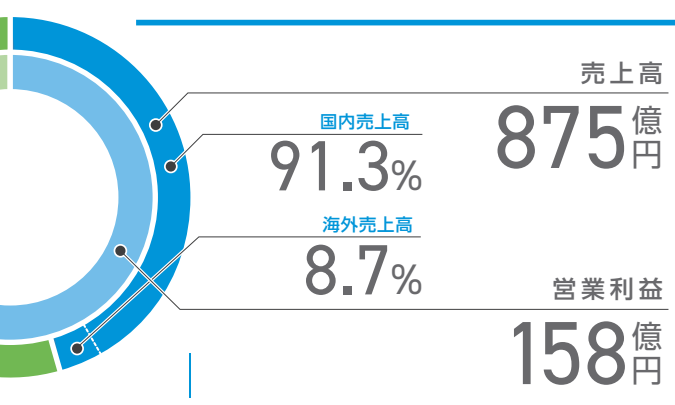


##### 有機微粒子

化粧品原料や光拡散材、改質材として使用される高度に精製された粒子状の樹脂製品。



## 建装建材事業



化学技術を活かした独創性の高い商品を提供  
 化成品事業で培った化学技術を活かして独創性の高い商品を提供し、国内シェアNo.1のメラミン化粧板を基軸とした多種多様な商品を提供しています。豊富なバリエーションであらゆる建築空間を彩ります。

### 事業領域

## を実現する2つの事業



商業施設	オフィス	教育・文化施設	交通施設
医療・福祉施設	ホテル・宿泊施設	倉庫・工場	住宅

### 主な製品

**メラミン化粧板**(セルサス・フレアテクト)

色柄が豊富で、耐久性に優れているため、店舗・病院・オフィスなどのテーブルや家具の表面材として使われる建築素材です。国内で7割を超えるシェアを有します。

住宅  非住宅

**ボード・フィルム等**(アイカポリ・オルティノ)

合板の表面をポリエステル樹脂などで化粧した化粧ボードは、主に家具や壁面に使用されます。塩化ビニル樹脂製の粘着剤付化粧フィルムは、主に壁面や建具用途に使用されます。

住宅  非住宅

**メラミン不燃化粧板**(セラルール)

不燃認定を取得した壁面用のメラミン化粧板。1996年からは住宅のキッチンパネル用途で大ヒット。堅牢性と意匠性と簡易施工性から、病院や学校、交通施設などでも定番の素材です。

住宅  非住宅

**不燃建材**(アルディカ・ルナライト・メース・モイス)

けい酸カルシウム板を樹脂やシートなどで化粧した壁装材、外壁用の押出成形セメント板、調湿・消臭効果がある内壁材など、主原料に無機系の材料を用いた壁面用不燃建材です。

住宅  非住宅

**カウンター**(ポストフォーム・人工大理石・高級人造石)

メラミン化粧板を使用したカウンターから、アクリル樹脂系人工大理石、天然水晶を主原料とした人造石まで、建築現場で求められる主要なカウンターのラインナップを揃えています。

住宅  非住宅

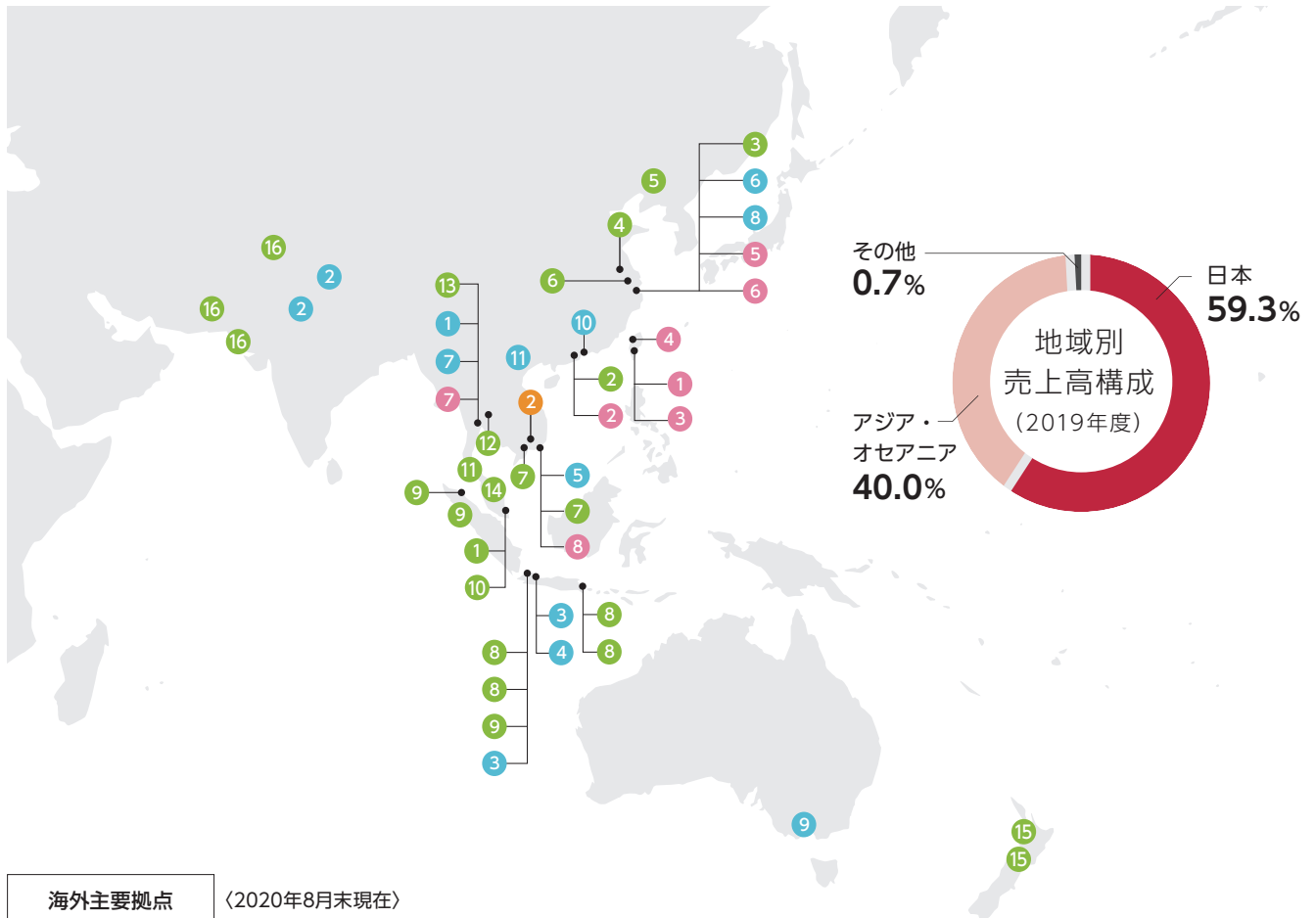
**建具・インテリア建材**

メラミン化粧板や化粧ボードなどの素材で作られた、ドア、引戸、収納、トイレブースなどの加工品。素材メーカーならではの豊富な色柄とユニバーサルデザインに強みを持ちます。

住宅  非住宅

# グループネットワーク

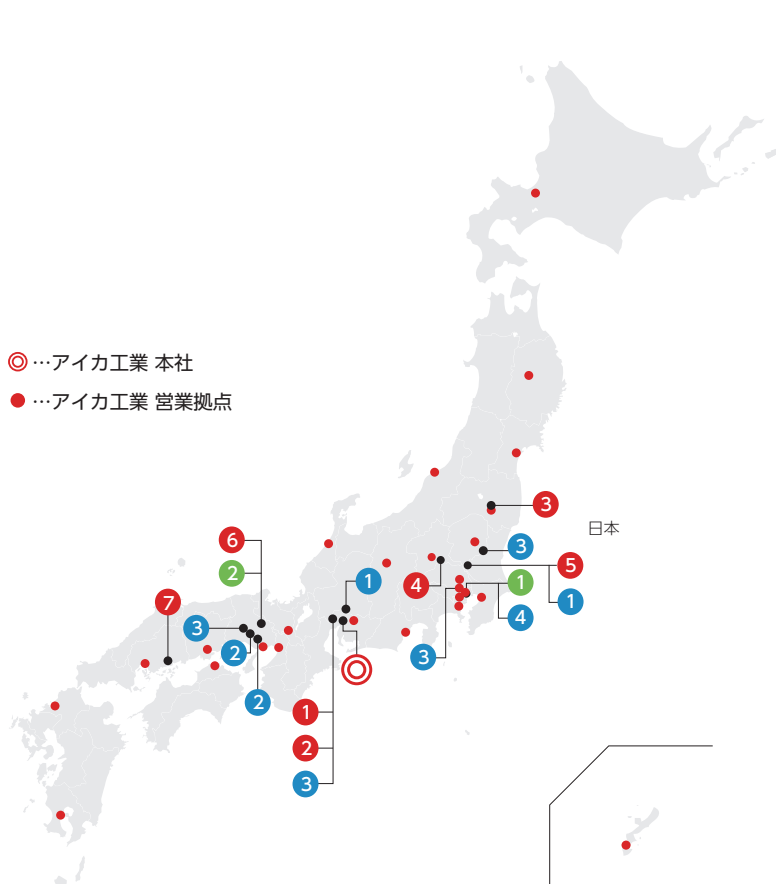
当社は、「アイカ10年ビジョン」において、2027年3月期までに海外売上高比率45%以上とすることを目標に掲げています。海外拠点の新規設置、M&Aの積極的な活用により、海外ビジネスのさらなる発展を図っています。



海外主要拠点 (2020年8月末現在)

所在地	主要取扱品目
<b>建築建材事業</b>	
① アイカ・アジア・ラミネーツ・ホールディング社	海外建築建材事業統括会社
② アイカ・ラミネーツ・インドネシア社	メラミン化粧板の製造販売
③ アイカインドネシア社	メラミン化粧板、メラミン不燃化粧板、工業用接着剤の製造販売
④ テクノウッドインドネシア社	ボードの製造販売
⑤ アイカ・ラミネーツ・ベトナム社	メラミン化粧板、メラミン不燃化粧板の製造販売
⑥ ソイス・メンディニ上海社	建築建材の販売
⑦ ウィルソナート・タイ社	メラミン化粧板の製造販売
⑧ ウィルソナート上海社	メラミン化粧板、不燃建材の製造販売
⑨ ウィルソナート・オーストラリア社	低圧メラミン化粧板の製造販売
⑩ ウィルソナート・アジア社	メラミン化粧板、不燃建材の販売
⑪ アイカHPLトレーディング社	メラミン化粧板の販売

所在地	主要取扱品目
<b>化成事業</b>	
<b>アイカ・アジア・パシフィック・ホールディンググループ</b>	
① アイカ・アジア・パシフィック・ホールディング社	海外化成事業統括会社
② ダイネア広東社	工業用接着剤・樹脂、合板用接着剤、繊維板用樹脂、含浸紙、機能材料の製造販売
③ ダイネア上海社	化成品の販売
④ ダイネア南京社	工業用接着剤・樹脂、合板用接着剤、繊維板用樹脂、機能材料の製造販売
⑤ 瀋陽アイカ社	工業用樹脂の製造販売
⑥ 昆山アイカ社	施工用接着剤、建設樹脂、機能材料の製造販売
⑦ アイカドンナイ社	工業用接着剤・樹脂、合板用接着剤、繊維板用樹脂、建設樹脂の製造販売
⑧ アイカインドリア社	工業用接着剤・樹脂、施工用接着剤、機能材料の製造販売
⑨ アイカムギインドネシア社	工業用樹脂、合板用接着剤、繊維板用樹脂、含浸紙の製造販売
⑩ アイカシンガポール社	工業用接着剤・樹脂、合板用接着剤、繊維板用樹脂、機能材料の製造販売
⑪ アイカハチャイ社	合板用接着剤、繊維板用樹脂の製造販売
⑫ アイカバンコク社	工業用接着剤・樹脂、機能材料の製造販売
⑬ タイケミカル社	工業用接着剤・樹脂、繊維板用樹脂、可塑剤の製造販売
⑭ アイカマレーシア社	工業用接着剤・樹脂、合板用接着剤、繊維板用樹脂の製造販売
⑮ アイカニュージーランド社	工業用接着剤・樹脂、合板用接着剤、繊維板用樹脂の製造販売
⑯ ダイネアパキスタン社	工業用接着剤、合板用接着剤、繊維板用樹脂の製造販売



◎ …アイカ工業 本社  
● …アイカ工業 営業拠点

国内主要拠点 (2020年8月末現在)

所在地	主要取扱品目
<b>化成産事業</b>	
エバモア・ケミカル・インダストリーグループ	
① エバモア・ケミカル・インダストリー社	機能材料の製造・販売
② 東莞ボーチェン・ケミカル社	機能材料の製造・販売
③ ケムマット・テクノロジー社	機能材料の製造・販売
④ ジャイアントスター・トレーディング社	機能材料の販売
⑤ トプコ上海社	機能材料の販売
⑥ リーダーシップ上海社	機能材料の販売
⑦ トップウェル社	機能材料の販売
⑧ ベトナム・ユーベスト社	機能材料の製造・販売
<b>その他</b>	
① アイカアメリカ社	機能材料の販売
② 西東京ケミックス・ベトナム社	化成産の販売

所在地	主要取扱品目
<b>アイカ工業株生産拠点</b>	
<b>建築建材事業</b>	
① 名古屋工場	メラミン化粧板・メラミン不燃化粧板の製造
<b>化成産事業</b>	
② 葛目寺工場	工業用接着剤・樹脂、合板用接着剤、施工用接着剤、建設樹脂、機能材料の製造
③ 福島工場	建設樹脂の製造
④ 伊勢崎工場	工業用接着剤・樹脂の製造
⑤ 茨城工場	機能材料の製造
⑥ 丹波工場	機能材料の製造
⑦ 広島工場	合板用接着剤、施工用接着剤、建設樹脂の製造
<b>国内グループ会社</b>	
<b>建築建材事業</b>	
① アイカインテリア工業株式会社	カウンター、建具・インテリア建材の製造・販売
② アイカハリマ工業株式会社	メラミン不燃化粧板の製造・販売
③ アイカテック建材株式会社	不燃建材の製造・販売
④ アイカテックエンジニアリング株式会社	不燃建材の施工
<b>化成産事業</b>	
① 西東京ケミックス株式会社	化成産の販売
② 崇広サービス株式会社	機能材料の充填・移送

# アイカ10年ビジョンと中期経営計画の進捗

## アイカ10年ビジョン策定の背景

当社は、創立90周年を迎える2027年3月期に向けて、「アイカ10年ビジョン」を策定しました。国内建設市場の動向に左右されにくい骨太な経営体質への変革を目指し、化成品事業においては、人々の暮らしや社会インフラを支える建設分野向け樹脂でアジアトップメーカーを目指すとともに、自動車・日用品・電子材料など、非建設分野も成長させていきます。また、建装建材事業においては、住宅・非住宅の生活空間に快適と安全を提供できる「空間デザインメーカー」としてさらなる事業拡大を目指しています。

## アイカ10年ビジョン

### 10年後の財務目標

	2017年3月期	2027年3月期
連結売上高	1,516億円	3,000億円
連結経常利益	183億円	300億円
ROE	9.9%	10%以上
海外売上比率	30.8%	45%以上

### 10年後のあるべき姿

#### 化成品事業 売上高 1,700億円

化成品事業は、人々の暮らしや社会インフラを支える建設分野向け樹脂で「アジアトップメーカー」を目指しつつ、自動車、日用品、電子材料など非建設分野で成長していきます。

#### 建装建材事業 売上高 1,300億円

建装建材事業は、外壁を含めた壁市場全体に事業領域を拡大し、住宅・非住宅の生活空間に快適・安全を提供できる「空間デザインメーカー」として成長を続けていきます。

#### 事業連携

化成品事業と建装建材事業が相互に触発・連携し、社会に役立つ独自の商品を生み出していく企業グループを目指します。

#### 資本提携やM&Aの活用

資本提携やM&Aも含め積極的に自己資金を投入していきます。

### グループ連携・事業基盤の強化

市場環境の変化に対応できる体制構築のため、グループ連携と事業基盤を強化していきます。

生産・物流体制最適化

技術・素材連携

研究開発投資

コンプライアンス

QEOマネジメント

健全な財務基盤

ITインフラ整備

### 人材育成

ダイバーシティ経営を推進し、グローバル人材とプロフェッショナル人材育成のため、多様な人材育成制度を構築していきます。

グローバル人材

ダイバーシティ

プロフェッショナル人材

### ステークホルダーへの責任

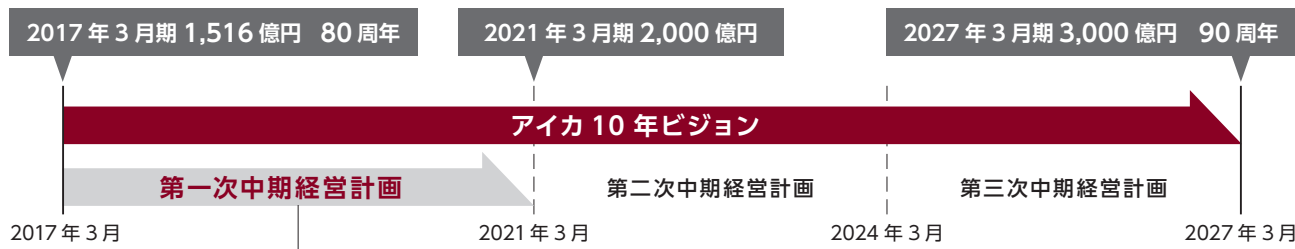
ステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、地域社会への貢献とCS・ESを高める経営を推進していきます。

企業価値の増大

コーポレートガバナンスの強化

地域社会との共生

CS・ESの向上



## 中期経営計画「C&C2000」



### 財務目標

項目	2017年3月期 (実績)	2021年3月期 (目標)
連結売上高	1,516億円	2,000億円
連結経常利益	183億円	220億円
ROE	9.9%	10%以上
海外売上比率	30.8%	35%以上

中期経営計画「C&C2000」は、人口減少・少子化・高齢化に伴う住宅需要の変化や、インフラや建物の老朽化、環境意識のさらなる高まり、消費増税、IoT・AI等の技術革新など、事業環境が大きく変化する中で、アイカグループの強みである「化学」と「デザイン」の力を活用し、豊かな社会の実現に貢献する独創性のある商品をつくり出すことで持続的に成長し、企業価値を向上させることを目指しています。

### 基本方針

#### 1 3つの成長ドライブの追及と実現(P21～)

- AS商品\*1群の拡充による国内基幹事業の成長持続
- 次世代を担う注力分野の育成・投資  
(非建設向け分野、建材未開拓分野)
- ジャパンテクノロジーの海外展開

#### 2 成長を支える経営基盤強化

- C&C活動\*2を通じた一人ひとりの成長
- QEOマネジメント\*3とIT基盤刷新による顧客満足度・従業員満足度の向上
- コンプライアンスの遵守

\*1.AS商品:P21にて解説 \*2.C&C活動:P29にて解説 \*3.QEOマネジメント:P30にて解説

### 投資戦略

設備投資	220億円	▶ キャパシティ増強、ライン自動化、IT刷新	+	研究開発費	140億円	▶ 新技術導入、産学連携
事業投資	180億円	▶ エリア拡大、事業領域拡大		人財投資		▶ グローバル人材積極採用・育成、働き方改革、プロフェッショナル人材育成、ダイバーシティ推進

## 中期経営計画の進捗

積極的なM&Aの活用、新設した工場の稼働、新規市場開拓などにより、2019年3月期までに飛躍的な成長を遂げましたが、4年目である2021年3月期の業績予想は、新型コロナウイルス感染症の影響により残念ながら計画当初の目標には一部届かない見込みです。

### 財務目標進捗

項目	1年目 2018年3月期 (実績)	2年目 2019年3月期 (実績)	3年目 2020年3月期 (実績)	4年目 2021年3月期 (予想)
連結売上高	1,637億円	1,913億円	1,915億円	1,745億円
連結経常利益	196億円	212億円	213億円	147億円
ROE	10.1%	10.7%	9.9%	6.9%
海外売上比率	33.4%	42.0%	40.7%	40%以上

### 投資戦略進捗

項目	1年目 投資実績	2年目 投資実績	3年目 投資実績	4年目 計画
設備投資	45.2億円	78.9億円	71.3億円	70.0億円
事業投資	54.6億円	—	144.5億円	計画中
+				
研究開発費	28.5億円	32.0億円	34.5億円	36.0億円

# 社会課題解決に貢献するAS商品の拡充

About AICA

AICAのビジョン

AICAを支える基盤

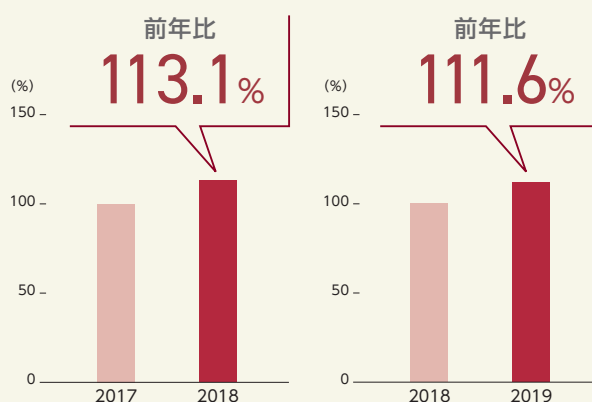
## AS商品とは

環境のみならず、さまざまな社会課題の解決の一助となる商品を、AS (Aica Solution) 商品として提供しています。様々なステークホルダーとのコミュニケーションを通じて社会課題を発見し、それを解決できる術を探求する商品開発を行っています。主要フィールドである国内建設市場に向けて、強みである「化学」と「デザイン」の力を活かした付加価値の高い商品を拡販することにより、社会も当社もサステナブルであることを目指します。

## AS商品の開発状況・今後の展開

2019年度、当社主要フィールドである国内建設市場は住宅・非住宅ともに低調に推移したものの、建装建材事業においてAS商品を中心に売上を伸ばし、増収に寄与しました。AS商品は現在アイカ工業(株)単体の売上高の約1割を占めており、成長のけん引役となっています。

■対前年比伸び率 ※毎年対象品目の見直しを実施しているため、それぞれの年度での比較としています。



2020年度  
AS商品売上目標  
前年比  
**112%**

## AS商品が貢献できる社会課題の一例

社会課題	解決に寄与する価値	価値を提供できる代表的なAS商品
インフラや建造物の老朽化	<b>建築物の長寿命化</b> 老朽化が進むインフラの改修向け商品や、リフォーム向け商品を提供します。	〔補修・補強材〕 ●ダイナミックレジン (外壁タイル剥落防止工法など) ●ジョリシール (コンクリートひび割れ補修など)
気候変動 (地球温暖化など)	<b>輸送時のCO<sub>2</sub>削減</b> 軽量化を図るなど、積載効率の良い商品を開発・拡販することで、温室効果ガスを削減します。	〔不燃建材〕 ●アルディカ (UV硬化不燃化粧板) 〔ボード・フィルム等〕 ●オルティノ (粘着剤付化粧フィルム)
建築現場における職人不足	<b>簡易施工商品</b> 少子高齢化に伴う人手不足に起因する職人不足を補うべく、容易に施工できる商品を開発します。	〔メラミン化粧板〕 ●メラタック (粘着剤付メラミンシート) ●マグネットメラミンEV (マグネット付メラミン化粧板)
天然資源の枯渇	<b>自然環境の保全</b> 木材や石材の有効活用や代替材料の提案により、森林の伐採や石材の採掘を抑制します。	〔カウンター〕 ●ポストフォームカウンター (メラミン化粧板カウンター) ●フィオレストーン (エンジニアドストーン)
ダイバーシティ	<b>ユニバーサルデザイン</b> 小さなお子さまや高齢の方など、さまざまな方が使いやすい商品開発を推進します。	〔建具・インテリア建材〕 ●まなブース (キッズ向けメラミントイレブース) 〔メラミン化粧板〕〔セラーリ〕 〔カウンター〕〔建具・インテリア建材〕 ●ウイルテクトシリーズ (抗ウイルス建材)

## ウイルテクトシリーズ

表面に付着した特定ウイルスの数を減少させる抗ウイルス建材

グローバル化の影響もあり、季節を問わずウイルスや細菌が広がりやすくなっていることから、ウイルス・細菌対策の重要度がますます高まっています。そのような社会課題を解決する商品として2019年1月に発売されたのが、抗ウイルス剤練込メラミン化粧板「アイカウイルテクト」です。特に、医療・福祉施設や育児・教育施設などにおいては、利用者の方々の不安要素を少しでも取り除くため、抗ウイルス建材の採用に積極的です。

「新しい生活様式」への移行に向けてお役立ていただくべく、シリーズ商品として抗ウイルス剤練込メラミン不燃化粧板「セラールウイルテクト」や、「アイカウイルテクト」を表面材として採用したトイレブースやドア、カウンターなどを拡充しました。今後、さらに対応商品を拡大し、住宅・非住宅市場、床・壁・家具・建具用途とあらゆるニーズを取り込み、ウイルテクトシリーズの売上を3年後に50億円へ伸長させる計画です。



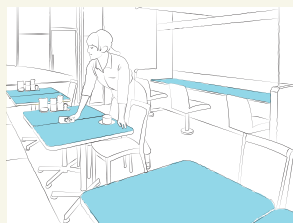
ICUや救命救急の廊下にアイカウイルテクトとセラールウイルテクトを納入することが決定した「吉林大学中日聯誼病院(长春市)」



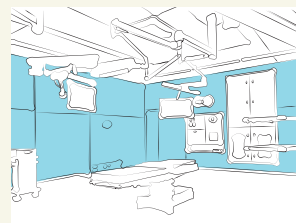
手術室の什器表面材にアイカウイルテクトが採用された「北野病院」

### ウイルテクトシリーズ ご提案用途

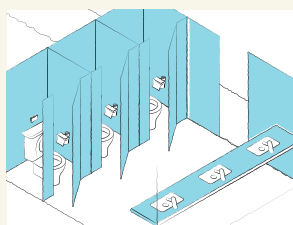
食堂や飲食店のテーブル



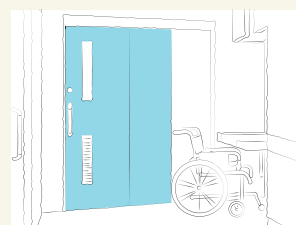
病院などの壁面



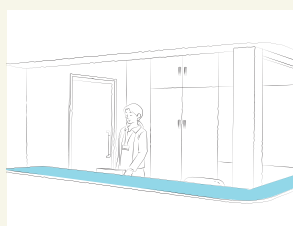
トイレ空間のトイレブース、壁、カウンター



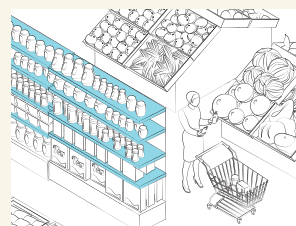
老健施設や保育園などのドア



クリニックやホテルなどの受付カウンター



店舗の商品陳列棚



## アイカピュール

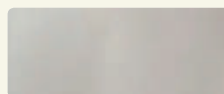
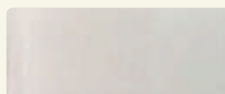
紫外線による変色を抑え、カット目地不要の水性硬質ウレタン樹脂系塗り床材

「アイカピュールハード」の従来工法は、高い耐久性が評価され、無人搬送車(AGV)が重量物を積載して走行する工場などで採用されています。AH工法は、当社独自の樹脂設計技術により、従来工法の耐久性はそのままに、紫外線による変色を抑制したため半屋外の自動車整備工場などでも使用できるようになりました。さらに、硬化収縮により発生する収縮応力を大幅に低減させ、剥離を防止するためのカット目地の処理が不要となり、工期短縮を実現しました。

耐候性試験結果[殺菌灯300時間照射]

**新工法** ピュールハードAH工法

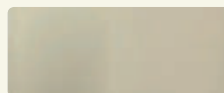
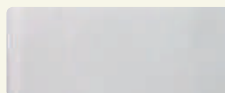
照射前



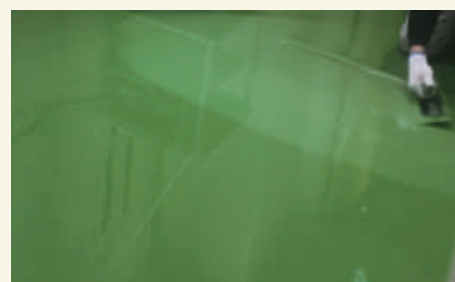
照射後

**従来工法** 汎用エポキシ流しのべ工法

照射前



照射後



カット目地が不要なため、短工期で施工できる



耐熱タイプは食品工場などにも使える

# 次世代を担う注力分野の育成・投資

## 機能材料事業の非建設分野を強化し、事業多角化を推進

### エバモア・ケミカル・インダストリーグループ製品の展開により広がる新規用途開拓

2018年1月にアイカグループに加わったエバモア・ケミカル・インダストリーグループ(EMCグループ)では、主力の架橋剤に加え、異種生地を接着する繊維用接着剤を日本市場で展開するなど、新しい取り組みを進めています。EMCグループでは川上原料から樹脂製品までを一貫生産しており、当社の持つ設計技術と組み合わせることで、より顧客の要望に応じた製品を生み出すことが可能となりました。

EMCグループは2020年7月にウレタン樹脂製造設備を保有するベトナムの2社を子会社化するなどさらに生産設備を増強。成長著しいベトナム市場でのシェア拡大も目指しています。

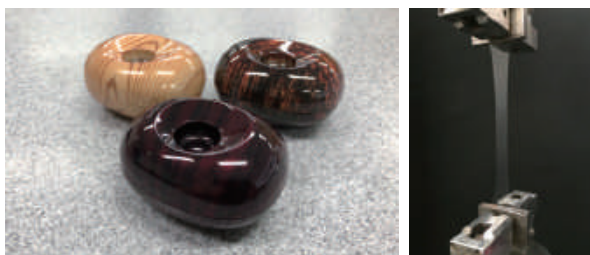


ウレタン樹脂製造設備を保有するベトナム新拠点

### 高い伸び率と耐薬品性・耐摩耗性を誇る3次元加飾用ハードコートフィルム「ルミアートHCシリーズ」

当社の開発した3次元加飾用ハードコートフィルムは250%という高い伸び率を誇り、さらに耐薬品性・耐摩耗性にも優れています。この製品には10年以上の研究を重ねたUV塗料を使用しており、従来であればトレードオフの関係にある伸び率と耐摩耗性を両立させることに成功しています。

「ルミアートHCシリーズ」は自動車のインストルメントパネルやスイッチパネルなどの内装加飾部品をターゲットとし、さらに外装にも適した「Sグレード」、2020年5月には触感にこだわった「テクスチャーグレード」の開発にも成功。現在、自動車メーカーに向けて提案を行っており、採用に向けた具体的な検討が進められています。数年後の本格的な量産化を見据えて事業を進めています。



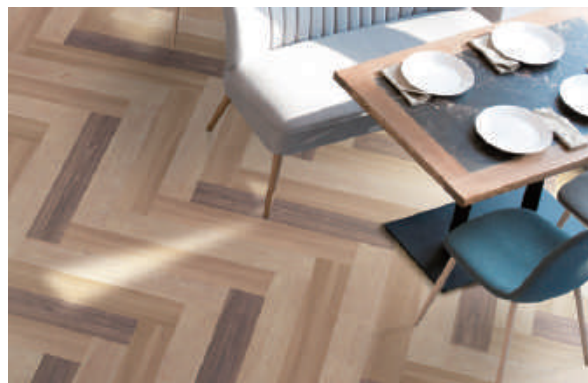
3次元加飾成形後のハードコートフィルム

フィルム延伸時

## これまでにない床材の発売により家具や壁面を含めたトータル提案を実現

### メラミンタイルの強みを活かし他社製品との差別化を図る

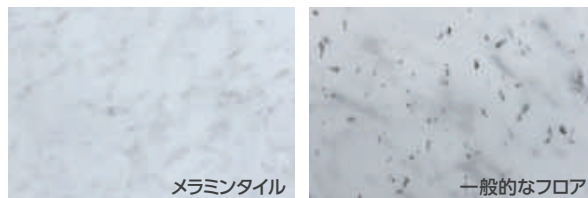
2019年7月に当社は新しい商品分野を開拓するこれまでにない床材、メラミンタイルの販売を開始しました。約1年間の販売活動の結果、キズや汚れに強い点などが評価され、大手アパレルの店舗の床材として採用されるなど、一定の成果を上げてきました。また、慢性的な施工職人不足という社会背景の中、メラミンタイルは比較的簡単に設置できる施工性の高さも評価されています。従来の床市場における製品とは差別化を図ったメラミンタイルをさらに広げていくことにより、家具や什器、壁面を含めた当社独自の提案を進めていきます。



### メラミンタイルの競争優位性

キズや汚れに強く施工性に優れているという点に加え、メンテナンス性の高さも強みの一つです。汚れが付きにくいため水拭きで汚れを除去できる上、ワックスがけも不要。清掃負担の軽減と共に費用削減にも貢献します。

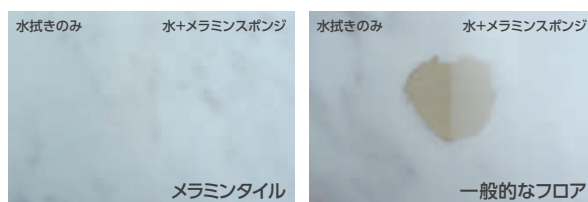
#### 耐ヒールマーク試験後外観



メラミンタイル

一般的なフロア

#### 耐毛染め液試験後外観



水拭きのみ

水+メラミンスポンジ

水拭きのみ

水+メラミンスポンジ

メラミンタイル

一般的なフロア



# ジャパンテクノロジーの海外展開

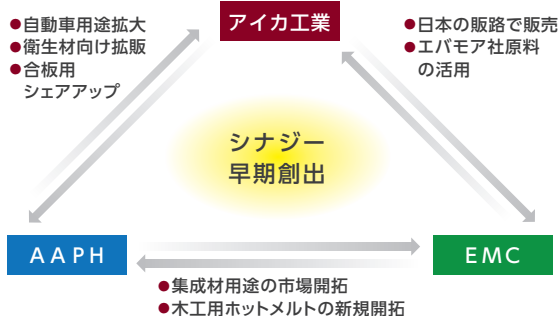
## 好調なフェノール樹脂事業を中心に、 更なるシナジー創出へ

### 海外グループ会社との連携強化を目指し、 海外企画部が発足

2020年4月の組織変更に伴い、新たに海外企画部を新設しました。海外企画部内の事業推進室では、グループ会社や組織の枠を越えて情報を共有することで、各グループの強みを活かしながらスピード感を持ってビジネスを進めることを目指しています。例えば木工用PURホットメルトは、当社で開発・設計を行い、EMC※1グループにて生産を行い、アイカ・アジア・パシフィック・ホールディンググループ(AAPHグループ)の販路にて販売。今後も各グループの開発力、生産力、販売網を駆使しながら、顧客ニーズに合わせた商品提案を進めていきます。

※1 エバモア・ケミカル・インダストリー

#### ■アイカ工業・AAPHグループ・EMCグループのシナジー創出

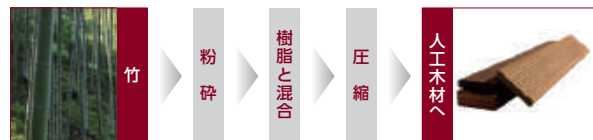


## 環境に優しい竹材用フェノール樹脂が 中国で需要増

中国では環境問題意識の高まりから、竹材用フェノール樹脂の需要が拡大しています。竹は4~5年という短期間で成長するため、成長の遅い木と比較すると環境に優しいという面があります。AAPHグループが製造するフェノール樹脂を使って作られた竹を原材料とした人工木材は、寸法安定性が高く耐久性もあるため、高級グレードとして販売されています。高級グレードとしては中国において高いシェアを誇り、中国以外にも米国や欧州にも販売ルートがあるため今後もさらなる成長が見込めます。

自動車業界などの産業用向けに強い国内のフェノール樹脂事業部の技術も活用しながら、アジア・オセアニア地域における幅広いフェノール樹脂のニーズに応えていきます。

#### ■竹の有効活用



## M&Aの積極的な活用により、 成長が続くアジア市場の基盤が整う

### ウィルソナート社のアジア太平洋地域各社が アイカグループに

メラミン化粧板メーカー大手のウィルソナート社が保有するアジアの事業会社4社を、2019年12月に子会社化しました。ウィルソナート社は1956年に米国テキサス州にて設立され、現在はグローバルに展開しています。ウィルソナート社が持つブランド力をはじめ、生産拠点を獲得したことは、アジア・オセアニア地域におけるシェア拡大に向けた大きな一歩です。当社にはないウィルソナート社独自の製品を展開することで販売機会の拡大を、重複する製品に関してはデザインで差別化することで最適化を図りながら、双方の持つ強みを活かし、シナジーを発揮していきます。



ウィルソナート上海社従業員とアイカグループ経営陣

## 経済成長を続けるベトナム市場を強化

2020年3月、アイカ・アジア・ラミネーツ・ホールディング社を通じ、ベトナムの化粧板販売会社であるCHIグループ8社の事業を継承するアイカHPLトレーディング社を合併出資、設立しました。ベトナムは人口1億人強を抱え、ネクストチャイナとして今後大きな成長が見込まれる市場です。2019年5月にはアイカ・ラミネーツ・ベトナム社にてメラミン化粧板の製造も開始しており、今回の事業継承により製造と販売の両輪がそろったこととなります。ベトナムでメラミン化粧板を製造する会社はアイカ・ラミネーツ・ベトナム社が初めてであり、製造と販売の強みを活かしながら、ベトナム国内だけでなく周辺諸国への輸出も含め、アジア地域におけるメラミン化粧板の販売拡大を目指します。



調印式の様子

# 事業概況：化成品事業



## アジアNo.1を目指して

コア技術を用いて高付加価値商品を拡充し、社会へ貢献するとともに、より収益性の高い事業への変革を推進します。海外グループ会社の強みを最大限活かし、シナジーの拡大、BCP・ガバナンス強化に取り組み、アジアNo.1を目指します。

取締役 常務執行役員  
化成品カンパニー長  
海老原健治



## 非建設分野の柱として

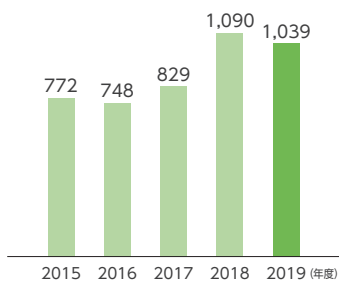
日本国内で培った樹脂設計技術や品質管理手法と、海外グループ会社の技術や販路を融合し、非建設分野において収益の柱を構築します。抗ウイルス性能や自動化、デジタル化などニューノーマル時代のニーズを迅速にとらえ、AICAが活躍できる舞台を拡大させていきます。

取締役 常務執行役員  
機能材料カンパニー長  
大村信幸

## 業績の推移

### 売上高

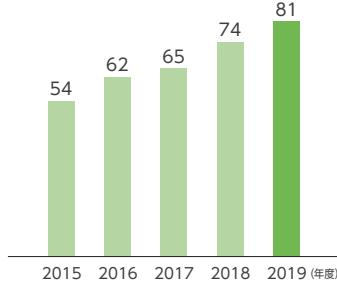
(単位：億円)



年平均成長率 **7.7%**

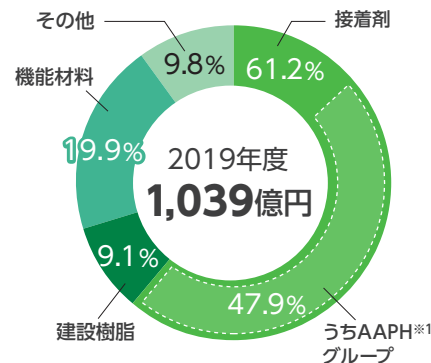
### 営業利益

(単位：億円)



年平均成長率 **10.7%**

### 商品群別売上実績



2020年度目標

売上高 **894億円**

営業利益 **57億円**

## 2019年度の業績

接着剤系商品は、国内においては、集成材用接着剤、産業用フェノール樹脂が低迷しましたが、施工用接着剤や合板用接着剤が好調に推移し、売上を伸ばすことができました。一方、海外においては、環境規制の強化が追い風となった中国や、タイで販売量を伸ばしたものの、原材料価格の値下がりに伴う売価の低下により売上は減少しました。

建設樹脂系商品は、外装・内装仕上塗材「ジョリパット」が前年を上回ったものの、工場・倉庫向けの塗り床材や橋梁・土木用の補修・補強材が低迷し、売上は前年を下回りました。

非建設分野への取り組みとして注力している機能材料事業につきましては、国内においては、電子材料用UV樹脂やシリコン製品が好調に推移しましたが、塗料・繊維用途のアクリル・コンパウンド製品や工業用途の有機微粒子が低迷し、前年を下回りました。一方、海外においては、前期より連結業績に組み入れたエバモア・ケミカル・インダストリー社が低採算取引の見直しや原材料価格の値下がりによる売価の低下により売上は前年を下回りましたが、利益率の高いビジネスに注力することで利益は大幅に増加しました。

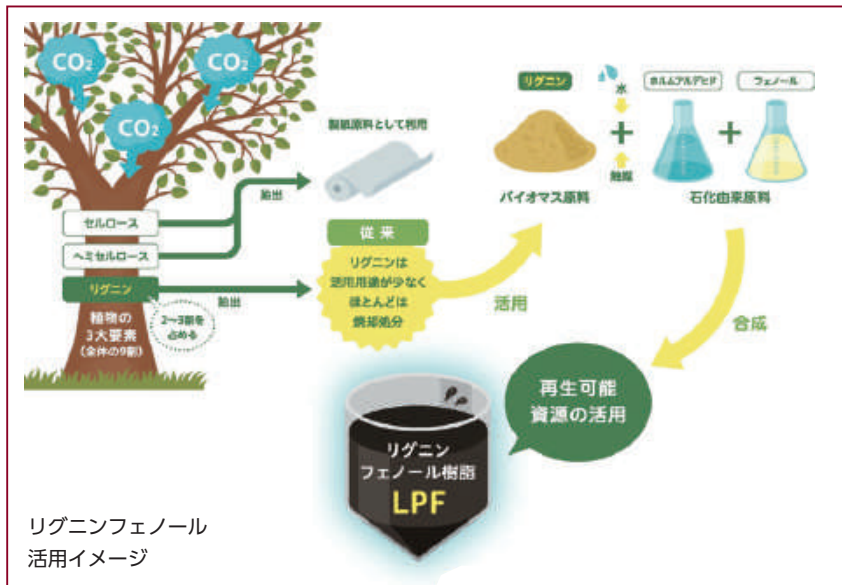
このような結果、売上高は103,945百万円(前年同期比4.7%減)、営業利益(配賦不能営業費用控除前)は8,123百万円(前年同期比9.1%増)となりました。

## 接着剤 海外ビジネス拡大、投資効果の創出

化成事業売上高の約半分を占めるAAPH※<sup>1</sup>グループ。原料安の影響で売上が減少するも、利益率は向上しており、今後も拡大路線を推し進めます。

### 植物由来原料を利用したリグニンフェノール樹脂を開発

当社の化成事業の海外統括会社であるAAPH社は、植物由来の未活用資源(バイオマス)であるリグニンとフェノール樹脂を組み合わせ「リグニンフェノール樹脂」の開発に成功しました。環境問題が深刻化する中、現在、世界各地でリグニンとフェノール樹脂を組み合わせる研究開発が進んでいますが、アジア・オセアニア地域でリグニンフェノール樹脂を活用する企業は未だありません。そこで、AAPH社はアジア・オセアニア地域においていち早く研究に着手し、リグニンフェノール樹脂の開発に成功しました。今後は合板用接着剤として中国・東南アジアでの商用化を進めます。アイカグループは、これからも再生可能な原料を活用した製品の開発に取り組みます。



### 竹材用フェノール樹脂の拡販

中国では、環境問題意識の高まりから、“竹”を原料にした人工木材の需要が伸びています。AAPHグループでは、人工木材の製造に欠かせないバインダー用樹脂を販売しています。

#### 竹の有効活用



※P24にも関連記事を掲載しています。

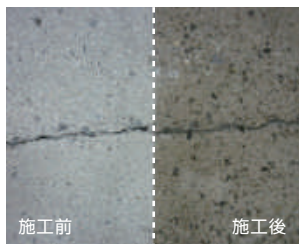
## 建設樹脂 差別化商品の拡販に注力

環境・高機能・省力化をキーワードに、新たな価値を付与した商品を拡充します。

近年、建設現場における職人不足が社会問題となっており、当社は省施工型商品を提供することで、問題解決の一端を担っています。また、補修・補強商品に注力しており、建築物の長寿命化、安全性の確保に貢献しています。

クリアフレジック1500

クラックメンテ JB-CM



透明な塗膜で施工後もひび割れの変化が確認できる



ガンタイプのため、コンクリートのひび割れを素早く容易に補修できる

## 機能材料 アイカ工業、AAPHグループ、EMC※<sup>2</sup>グループのシナジー拡大

新たな仲間が加わった両グループとともに、海外展開の更なる発展を目指します。

ベトナムにおける運動靴底用のポリウレタンシステム(PUS)市場においてトップシェアを獲得しているEMC社は、ビジネスの現地化を図ることを目的に、同国内のウレタン製造会社を買収し、十分な土地と製造設備を手に入れました。今後、さらなる拡大が見込まれるベトナムのウレタン樹脂市場で一層のシェア拡大を目指しています。



EMC社はベトナム国内の運動靴底用のポリウレタンシステム(PUS)市場においてトップシェアを獲得している

※1 AAPH…アイカ・アジア・パシフィック・ホールディング ※2 EMC…エパモア・ケミカル・インダストリー

# 事業概況：建装建材事業



## 海外事業の拡大と付加価値の追求

昨年度、アジア・オセアニア地域に建装建材事業の拠点を拡充整備いたしました。ポートフォリオを最適化し、27年3月期に建装建材事業の海外売上高300億円を達成すべく邁進してまいります。

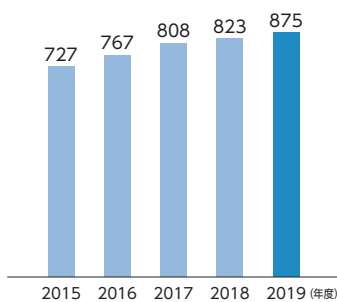
また、“新しい生活様式”に“新しい生活空間”を提案する抗ウイルス建材「ウイルテクトシリーズ」のように、激しく変化する社会、気候、環境に適応する付加価値の高い機能性商品を拡充し、さまざまな課題に取り組んでまいります。

取締役 専務執行役員  
建装建材カンパニー長  
岩瀬幸廣

## 業績の推移

### 売上高

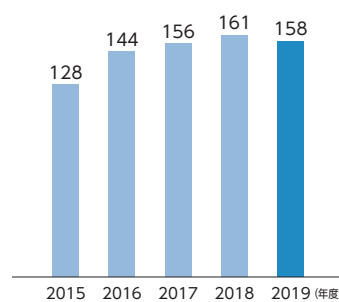
(単位：億円)



年平均成長率 **4.7%**

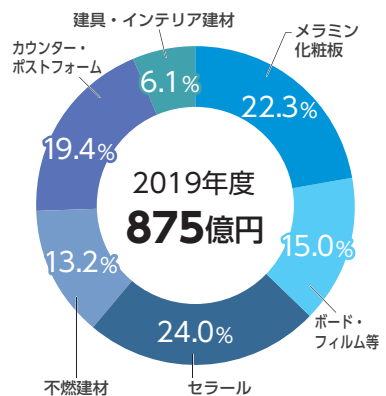
### 営業利益

(単位：億円)



年平均成長率 **5.4%**

### 商品群別売上実績



2020年度目標

売上高 **851億円**

営業利益 **123億円**

## 2019年度の業績

メラミン化粧板は、国内においては非住宅建設着工面積の減少の影響から売上が前年を下回りましたが、海外においては、インドやインドネシアでの販売量が増え、売上を伸ばすことができました。また、第2四半期連結会計期間より連結業績に組み入れた中国の化粧板商社ソイス社が寄与し、全体としては売上を伸ばすことができました。

ボード・フィルム類は、汎用的なポリエステル化粧板が苦戦し、前年を下回りました。

メラミン不燃化粧板「セラール」は、住宅のキッチンパネル用途、教育施設、医療・福祉施設、店舗、オフィス、公共施設などでの需要を順調に獲得するとともに、「セラール消臭タイプ」や抗ウイルス剤練込メラミン不燃化粧板「セラールウイルテクト」の採用が拡大したことから前年を上回りました。

不燃建材は、アイカテック建材株式会社とのシナジーにより、アクリル樹脂系塗装けい酸カルシウム板「ルナライト」や押出成形セメント板「メース」が、スポーツ施設や教育施設、工場・倉庫、ホテル、商業施設の需要を取り込み、売上を伸ばすことができました。

カウンター・ポストフォーム商品は、旺盛な保育施設の新築・改修需要を取り込んだ人工大理石「コーリアン」製の幼児用手洗いカウンターや、キッチンや洗面カウンターでの需要を取り込んだ高級人造石「フィオレストーン」が好調で、売上を伸ばすことができました。

建具・インテリア建材は、医療・福祉施設向け機能建具「U.D.(ユニバーサルデザイン)コンフォートシリーズ」が好調に推移しましたが、市場環境の厳しさから住宅向けの建具シリーズが低迷し、前年を下回りました。

このような結果、売上高は87,555百万円(前年同期比6.4%増)、営業利益(配賦不能営業費用控除前)は15,874百万円(前年同期比1.8%減)となりました。

## 国内市場 AS\*商品を中心とした現場施工型商品に注力

### ■ 抗ウイルス建材

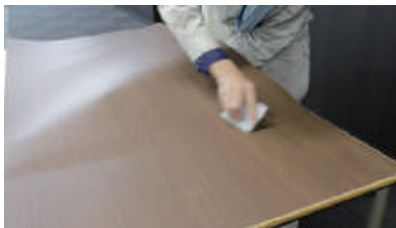
定期的に発見される新しいウイルス。共存型社会の形成に向けて、少しでも不安を取り除くことの出来る商品を提案します。



食堂など、複数の方が利用するテーブル天板に

### ■ 省施工型商品

国内建設市場においては慢性的な職人不足が課題となっています。施工がやすく、短工期で施工可能な商品を拡充し、社会課題解決に貢献します。



粘着剤付きのメラミン化粧板は、テーブルの天板だけを補修することができる

### ■ 新規市場の開拓

新しい素材として需要が伸びつつける「フィオレストーン」や、昨年発売した「メラミンタイル」の拡販に注力するとともに、新規市場の開拓に注力します。



人造石「フィオレストーン」はキッチン天板として需要が伸びている



医療・福祉施設、教育施設などのドアや壁に



ユニットバスの壁面にそのまま貼れる高意匠パネル



「メラミンタイル」は商業施設を中心に売上げを伸ばしている

\*Aica Solutionの略。社会課題解決の一助となる商品

## 海外市場 成長が続くアジア・オセアニア地域でシェア拡大を目指す

積極的なM&Aの活用や新規拠点の設置により、人材・技術・生産・販売力が拡充され、当社グループのアジア・オセアニア地域における建装建材ビジネスのプラットフォームが格段に整備されました。

### ■ ウィルソナート社の

#### アジア・太平洋地域各社を子会社化

米国のグローバルメラミン化粧板メーカー・ウィルソナート社が保有する事業会社4社を子会社化。双方の生産技術や商品開発力を融合し、付加価値の高い商品を市場に投入することで、海外建装ビジネスの拡大を図ります。

### ■ アイカHPLトレーディング社設立

ベトナムの化粧板販売会社であるCHIグループの事業を承継し、設立。先行して稼働しているアイカ・ラミネーツ・ベトナム社と連携し、同国における事業の更なる発展を図ります。

※P24でも関連記事を掲載しています。



——— **【海外建装建材事業売上高】** ———

**2027年3月期アイカ10年ビジョン最終年度**

**300億円\*へ**

※2020年3月期売上実績75億円